

# 飯田市議会次期総合計画検討委員会

## 別冊 参考資料

### I 地区別懇談会の中間報告

### II 第5次基本構想基本計画の政策評価のまとめ

平成28年4月27日

飯田市総合政策部企画課

## 目次

### I 地区別懇談会の中間報告

|       |    |
|-------|----|
| 橋北地区  | 2  |
| 橋南地区  | 6  |
| 羽場地区  | 8  |
| 丸山地区  | 10 |
| 東野地区  | 14 |
| 座光寺地区 | 16 |
| 松尾地区  | 20 |
| 下久堅地区 | 22 |
| 上久堅地区 | 26 |
| 千代地区  | 30 |
| 龍江地区  | 32 |
| 竜丘地区  | 40 |
| 川路地区  | 44 |
| 三穂地区  | 46 |
| 山本地区  | 50 |
| 伊賀良地区 | 56 |
| 鼎地区   | 60 |
| 上郷地区  | 64 |
| 上村地区  | 72 |
| 南信濃地区 | 74 |

### II 第5次基本構想基本計画の政策評価のまとめ

|             |    |
|-------------|----|
| 9つの政策評価のまとめ | 77 |
|-------------|----|

## I 地区別懇談会の中間報告

**I 人口変動による影響****【働く・関わる】**

- ・商店街がさびれる。
- ・自治会の役員の担い手がいなくなり、自治会運営が難しくなる。
- ・世代間での継承が難しくなる。

**【学ぶ・育てる】**

- ・子どもが減少し、浜井場小学校の存続が心配される。

**【住む・交わる】**

- ・空き家、空き店舗が増加する。
- ・現在も若い世代は地区外に出ていっているが、若い人が少なくなりいっそう高齢化が進む。

**【老いる・治す】**

- ・高齢者世帯が一層増加し、買い物やごみ出しが自力で出来なくなる。
- ・地域で手助けする人もいなくなる。

**【つくる・残す】**

- ・大宮や長姫のお祭りに町内でみこしを出すのが難しくなる。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望****【働く・関わる】**

- ・商店街が存続していること。
- ・都会に出ていかなくとも、多くの人が希望する働く場所がある。
- ・住みやすい人間関係が地域にある。

**【学ぶ・育てる】**

- ・浜井場小学校や東中学校のクラスの存続。
- ・安心して子育てをし、働き続けられる環境。

**【住む・交わる】**

- ・若い家族が地域内に定住できる。
- ・緑やさくら、坂など、地区の特徴として活かされていく。
- ・公共交通が使いやすく、高齢者も住みやすいまち

**【老いる・治す】**

- ・病院や歯科医院、薬局が近くにあって安心して暮らせるまち
- ・介護サービスが在宅で十分受けられ、安心して高齢者が暮らせるまち
- ・高齢者が元気で生きがいを持って暮らせるまち

**【つくる・残す】**

- ・地域のつながりとまちの魅力として、大宮や長姫のお祭りが伝統文化として継承されていく。
- ・正月行事や津島様の祭りなど四季折々の伝統行事の継承。
- ・地区内に楽しめるイベントがあり、交流がある。
- ・歴史的建造物や城下町の遺構、石碑など、橋北にあるものの良さの継承。歩いて楽しむまちづくり。

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

#### 【働く・関わる】

- ・ 特徴ある商店街を作っていきたい。
- ・ 企業誘致を進めてもらい、地域で企業する人をよびこむなど、働く場所を確保。
- ・ 地域の暖かな人間関係を大切にしていきたい。

#### 【学ぶ・育てる】

・ 浜井場小学校や東中学校については、少人数で行き届いた教育環境を大切にし、「ここに通わせたい」といえる環境を進め、児童生徒の確保を図る。

・ 子育て世代の定着につながる、行政や医療機関による子育てしやすい環境づくり。

例：産婦人科、小児科等医療の充実、保育園や病児預かり施設充実。人も定着し働き手の確保につながる。

#### 【住む・交わる】

- ・ 空き家の利活用、住みやすさの PR により UI ターンを呼び込む。
- ・ 緑やさくら、坂を活かしたまちづくり
- ・ 電車やバスといった公共交通について、通学・通院・買い物などにより使いやすいものにしていく。

#### 【老いる・治す】

- ・ 地域の医療機関を大切に。
- ・ 地域の介護事業者を大切にし、良好な関係を築く。
- ・ 高齢者の生活を地域で支える。
- ・ 高齢者の生きがいづくり。

#### 【つくる・残す】

- ・ 地域外の応援も受け入れながら、伝統文化行事を大事にし、地域への愛着と絆を強める。
- ・ 地域への愛着や世代間交流につながる事業の企画
- ・ 歴史的建造物や城下町の遺構、石碑など、橋北にあるものを活かして、歩いて楽しむまちづくり

#### IV 未来ビジョンを実現するための計画

##### 【働く・関わる】

- ・ 役員の選出がしやすくなるように見直しを行う。

##### 【学ぶ・育てる】

- ・ 子どもたちが地域に愛着を持てるように、地域行事に参加してもらう。
- ・ 地域の魅力を地区の人に知ってもらう活動。

##### 【住む・交わる】

- ・ 空き家の利活用

例：空き家を改修して安い賃貸料で若い家族への住宅提供。

- ・ 空き家の除却による土地の有効利用

例：老朽化した空き家を解体して宅地提供してもらう。

- ・ 静かで街に近く、便利な居住環境であることを PR して、UI ターンを呼び込む。

##### 【老いる・治す】

- ・ 高齢者への見守り活動の充実

例：ごみ出しや買い物を支える仕組みづくり

認知症を地域で支える仕組みづくり

- ・ 高齢者が学び楽しめる交流の場を地域で作っていく。

##### 【つくる・残す】

- ・ 地域外の応援も受け入れながら、地区行事やお祭りに取り組み、人のつながりを深める。
- ・ どんど焼きなどの年中行事の伝統を引き継ぎ、町内世代間のつながりを深める。
- ・ さくら祭り、夏祭り、イルミネーションなど地区のイベントにより世代間交流を進める。
- ・ 旧飯田測候所、下伊那教育会館などの歴史的建造物や、菱田春草生誕地公園、寺院や一本桜、城下町の遺構、石碑などを、歩いて巡る事業や環境づくり



**I 人口変動による影響****①働く・関わる（産業、労働、社会活動など）**

- ・自治会や商栄会等への加入者が減少し、組織が維持できなくなる。
- ・組織に加入しない企業、店舗により、「まち」としてのイメージがなくなる。
- ・高齢化の進展により、地域の担い手がいなくなる。

**②学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援など）**

- ・小学校の統廃合、さらには小中一貫校舎が検討される。
- ・年少人口の減少により、子ども同士の交流が少なくなる。

**③住む・交わる（住宅、インフラ、人口政策など）**

- ・空き家が増えることで隣近所に目が行き届かなくなり、まちの治安が悪くなる。
- ・郊外への移住者が増え、高齢者が残ることで、買い物弱者・交通弱者が増加し、日常生活に不便が生じ、災害時の助け合い・救護も難しくなる。
- ・公共インフラの維持が難しくなる。

**④老いる・治す（医療、介護、福祉、高齢者など）**

- ・人間関係が希薄化し、介護を地域の問題としてとらえず、個人の努力にまかせた無関心層が多くなる。
- ・高齢者ばかりになり、近所での支えあいも十分にできなくなる。

**⑤つくる・残す（事業、環境、文化など）**

- ・祭典の実施に、地区外からの応援体制（人的・金銭的）が必要になる。また、将来への継承方法の検討が必要になる。

**⑥その他全般的に**

- ・マイカー利用の利便性により、郊外型大型店舗の利用が増える。
- ・リニア駅周辺へ都市機能が分散する。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望****①これからも守りたい、残したい地域の姿**

- ・「自然と文化・伝統の息づくまち」（観光客の持つ飯田のイメージ）を未来に残すよう、「伝統と文化に彩られた山紫水明の城下町」を基本とする。
- ・飯田のシンボル「りんご並木」は橋南地区のシンボルでもあり、老若男女、日本人も外国人も、誰もが自然環境を満喫できるまち。
- ・日常生活の中心地であり、芸術・文化も発信されるまち。



| Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋) |                                                                                                                                                          |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点課題                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域の魅力のさらなる向上</li> <li>②商店街活性化</li> <li>③まちなか居住の推進</li> <li>④交通基盤の強化</li> </ul>                                   |
| 基本方針                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①公共交通網が充実した都市交通基盤の整備</li> <li>②多様な主体の連携と交流によるまちづくりの推進</li> <li>③地域固有の価値の再認識</li> <li>④暮らしの視点からの新たな価値創造</li> </ul> |
| Ⅳ 未来ビジョンを実現するための計画    |                                                                                                                                                          |
|                       |                                                                                                                                                          |

**I 人口変動による影響****<良い影響>**

- ・リニア効果として、新しい人材の定住、U J I ターンや交流人口が増加する。大都会への通勤が可能になる。
- ・外国からの訪問者との交流が深まり、世界都市化する。
- ・少人数学級により学習内容が一人ひとりに行き届き学校生活が充実する。学年を超えた異年齢の縦のつながりがしっかりできる。
- ・近所隣人の様子がわかり、人と人とのつながりや交流が濃くなる。顔が分かる付き合いとなる。声を掛け合い、互いに支え合う暮らし方になる。
- ・高齢者の役割が増え、そのやりがいによって元気で活動的な人生を送ることができる。
- ・子供を大切にできる環境ができてくる。
- ・新規就農者がでてくる。

**<悪影響を懸念すること>**

- ・地域住民の関係性や役割分担において、負担増や不公平などのマイナス面が生じる。地区役員のなり手がなくなる。
- ・空家が目立つようになり、火災や犯罪の発生懸念や景観に問題が生じるなど、不安が募る。
- ・学校は複式学級となり、団体スポーツやチーム競技がままならなくなる。地域に子どもの声が減り活気がなくなる。
- ・伝統文化や祭りにおいて担い手不足となり、成り立たなくなる恐れがある。
- ・遊休農地が増え、農業の担い手が減り、食の安全や自給力に不安が出てくる。
- ・老老介護や高齢者の一人暮らしが増えて、日常生活に不安が伴う。認知症を起因とする事件事故が多発する。
- ・除雪や災害時の防災対応が困難になる。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望**

- ・家族と健康で毎日を楽しむ暮らし、安心した子育て環境の実現 → 3世代同居の推進、健康ケア、子育て支援
- ・自然に囲まれ、安心安全な羽場地区に、のんびり暮らす → 自然環境の維持保全、治安の向上、余暇拡大
- ・音楽、運動、旅行、趣味、英会話等が充実する毎日を送る → 公民館活動の活性化、心のゆとり
- ・きれいな街や公園を誇りにする羽場 → 「環境モデル都市・飯田市」の推進、羽場地区を環境美化重点区域に
- ・リニアで大都市通勤して収入確保し、羽場地区に住み続ける → 住み続けたい羽場、リニア経済効果の向上
- ・伝統文化と地域活動を継承し、出来る範囲でボランティア活動する → 協働と自立を重視した羽場の地域づくり
- ・夫婦仲良く心豊かに穏やかに健康で長生きする暮らしを実現する → 家族の絆を強くして長寿社会へ対応

**III 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)****①働く・関わる**

- ・高齢者から若者まで生涯安心して働くことが出来る場所(産業等)を創設及び確保し、その労働条件も改善する。
- ・リニア新幹線開業とネット社会において、通勤・通学・Uターン・Iターン・在宅ワーク等を新規開拓し充実させる。

- ・羽場地区の田畑を地域みんなで協力して保全して、地産地消できる農業の後継者体制づくりを推進する。
- ・安心して子供や高齢者を預けられる自治会、助け合いが出来るまちづくり、を推進する。
- ・地域内のボランティア活動を広げる。

## ②学ぶ・育てる

- ・学びの場として「地域の連携」と「世代間交流」を重視する。
- ・丸山小学校と西中学校の小中一貫教育から高大一貫教育へと、充実した教育のしくみを目指す。
- ・子育てしやすい環境の充実に向けて、子供を見守り育む地域づくりと世代間交流を深める。また、行政サービスも利用しやすくする。
- ・子育てする家庭が、平等かつ安心して学習できる環境および福祉サービスが受けられる体制を強化する。

## ③住む・交わる

- ・道路（飯田南木曽線ほか狭い道）や公園駐車場等のインフラ整備、公共交通機関（市民バス）充実などの運用整備をおこない、通院や買い物等の難民をなくす。
- ・公園や広場を活用し、市民が憩える集いや催しをおこない、いろいろな人との交流を図る。
- ・安心した生活（暮らし）のために、空き家のリフォームや良好な住宅の入手などに関して先駆的な対策を講じる。
- ・住環境のバリアフリーや介護保険サービスの汎用拡大を図り、三世代が楽しく同居出来る施策を講じる。

## ④老いる・治す

- ・晩婚化により育児と介護が同時期になっている状況を鑑み、介護や福祉のサービスを一層充実させる。
- ・介護を理由に離職や生活困窮とならないよう、飯田独自の社会福祉施設（宅老所等）を整備する。
- ・老いへの予防として、あいさつや声かけを活発にし、家に閉じこもらず外へ出掛けることを推奨する戦略の実施。
- ・他の自治体に勝る在宅医療制度を確立する。

## ⑤つくる・残す

- ・羽場地区の緑豊かな美しい自然環境と、風越山を望む風景を大切に維持する。
- ・猿庫の泉をガイドブック等で全国へアピールするとともに、市民の利用向上と環境整備の徹底に注力していく。
- ・元山白山神社参道桜並木の再生および貴重品種である正永寺桜の管理に尽力し、後世へ継承していく。
- ・羽場獅子舞や例祭など伝統芸能文化の継承や、生まれ故郷を知り学ぶ総合学習と公民館活動を通じて、地育力向上と心豊かな人づくりを推進する。
- ・「人形劇フェスタ」「オーケストラと友に」等の市民参画型文化活動を、ムトスの精神で発展させ、全国発信する。

## IV 未来ビジョンを実現するための計画

**I 人口変動による影響****1 働く・関わる（産業・労働・社会活動など）**

- 1-①税収が減少する。
- 1-②自治会活動、伝統文化の継承行事の維持が困難となる。
- 1-⑤組合が成り立たなくなり、若い世代への負担が増える。
- 1-⑥自治会が役員不足になり、地域活動（河川清掃、資源回収など）ができなくなる。自治会の統合が必要になる。
- 1-⑦専業農家の減少・農業の担い手不足により、遊休農地・荒廃地が増える。
- 2-②増税になる。
- 2-⑤役員の高齢化や人口減少により、自治会の運営の維持が困難になり、自治会の統廃合が必要になる。
- 3-①高齢者増加により、交通事故・特殊詐欺等の被害が増える一方で、地域活動の普及啓発を行う人が減る。
- 3-②消防団員の減少により、自主防火活動が衰退する。
- 3-③ボランティア・助け合い」の精神が薄れ、活動が「仕事化」することで、活動に要する費用が増える。

**2 学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援）**

- 1-⑧学校・保育園・病院が減少し、統合が必要になる。
- 2-⑦現在の学校の統廃合が必要になる。生徒児童の減少により、学級数が減少する。児童会が運営できなくなる。

**3 住む・交わる（住宅、インフラ整備、人口政策など）**

- 1-③空き家、空き地が増え、アパートの入居者数も減少し、地区全体の景観が損なわれる
- 1-④商店・コンビニが減り、商品が売れなくなり、買い物弱者が増える。
- 2-①公務員が減少することにより、行政・治安への不安が増大、行政サービスが低下する
- 2-⑨都会化・・・地域内での人間関係が希薄化する。地域内交流が減る。
- 3-④空き家の増加で土砂災害の状況把握が困難になり、被害が大きくなる。助け合いがしづらくなる。要援護者が増加する一方で支援者が減少する。

**4 老いる・治す（医療、介護、福祉、高齢者など）**

- 2-③年金支給額が減り、生活が苦しくなる。
- 2-④高齢化率が上がる。
- 2-⑧高齢化が進み、1人暮らし世帯・高齢者世帯が増える。介護施設が足りなくなる。空き家が増える。
- 2-⑩支援する若い世代の負担が増える。
- 3-⑤民生委員が担当する対象者・要支援者が多くなる。委員のなり手不足

**5 つくる・残す（事業、環境、文化など）**

- 2-⑥地域行事への参加者が減少し、小規模になる。また、地域行事の運営の個人負担が増え、継続が難しくなり見直しが必要となる

## Ⅱ 地区未来ビジョン・地区人口展望

### 1 働く・関わる（産業・労働・社会活動など）

1-③二世帯住宅の増加、働く場所の確保などにより、若い人が丸山に帰ってきやすい環境づくり。

### 2 学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援）

1-②子供を産み、育てる環境を地域全体でできる体制づくり。多世代交流を増やす。

### 3 住む・交わる（住宅、インフラ整備、人口政策など）

1-④目標人口 2028 年 3,100 人、2045 年 2,500 人規模。（毎年 UI ターンで 3 区分の世帯を各 2 組ずつ移住受け入れによる）

1-⑤地域資源（風越山、文化財、公園、グラウンド、お祭り等）を活かした交流人口の増加

### 5 つくる・残す（事業、環境、文化など）

1-⑤地域の自然を大切に、「丸山のシンボル花木の選定」や「風越山などの資源を活用」す「公園、グラウンド」等の既存施設を活用することにより、人のつながりや絆を深める。（交流人口の増）

## Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略（道筋）

### 1 働く・関わる（産業・労働・社会活動など）

1-②自治会の再編成

1-③研究施設の誘致

1-⑤空き家、空き地の有効活用

1-⑥若者の定住促進・定年世代の U ターン

2-④住民から意見やアイデアなどが自主的に出てくるような環境づくり

2-⑩介護施設の設置・充実による雇用の確保

2-⑮大学・専門学校の誘致

2-⑯企業誘致による U I ターンの受け入れ

2-⑳自治組織による各種事業の見直し・整理（事業の統廃合）自治体の制度を見直す

3-⑤地域の行事・会議への若者参加者の増加。

3-⑦消防団員の定年の引き上げ

3-⑧地域自治組織の改編・再編と予算増

3-⑩自主防災組織についての若者世代等への周知による参加増加

3-⑪学校教育の見直しによる中高生が中心となった自主防災

### 2 学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援）

1-①強力なリーダーの養成

2-①共助のさらなる強化

2-②地域交流の必要性

2-③各世代ごとのネットワークをつくり、活用

2-⑥数か所に自由に住民が集まれる場所を作る

2-⑦地域が子育てにかかわる

2-⑧生きがい・楽しみのある生活

2-⑫子供の教育の充実

- 2-⑮大学・専門学校の誘致
- 3-②若い世代の組織をつくる
- 3-③地域資源を活かし、移住や交流人口増加による地域づくり
- 3-④若者にも高齢者にも住みよい住環境整備にする（道路公園病院買い物等へのアクセスに不便がないようにする）。
- 3-⑨若者同士の共助の充実とその指導者の確保
- 3-⑪学校教育の見直しによる中高生が中心となった自主防災

### 3 住む・交わる（住宅、インフラ整備、人口政策など）

- 1-④過疎地域の丸山への集落移住
- 1-⑤空き家、空き地の有効活用
- 2-②地域交流の必要性
- 2-③各世代ごとのネットワークをつくり、活用
- 2-④住民から意見やアイデアなどが自主的に出てくるような環境づくり
- 2-⑤グループホーム
- 2-⑥数か所に自由に住民が集まれる場所を作る
- 2-⑩介護施設の設置・充実による雇用の確保
- 2-⑭人口流入策の必要性
- 2-⑯企業誘致によるU I ターンの受け入れ
- 2-⑱交通インフラ整備。

### 4 老いる・治す（医療、介護、福祉、高齢者など）

- 2-①共助のさらなる強化
- 2-⑤グループホーム
- 2-⑥数か所に自由に住民が集まれる場所を作る
- 2-⑧生きがい・楽しみのある生活
- 2-⑨健康づくりの推進
- 2-⑩介護施設の設置・充実による雇用の確保
- 2-⑱買い物弱者対策（移動販売車等）
- 3-①健康な高齢者の地域での活躍

### 5 つくる・残す（事業、環境、文化など）

- 2-⑬地域資源（風越山、祭り、清らかな水、川）を活かした観光開発
- 3-⑤地域の行事・会議への若者参加者の増加。

#### IV 未来ビジョンを実現するための計画

**I 人口変動による影響****「働く・関わる」**

- 現在も働く場所（企業）が少ないと感じているが、特に若者の減少により更に働く場所（企業）が減少する。
- 人口減少・少子高齢化により地域の活力が低下し、自治会組織や消防団、祭りなど各種地域活動の停滞や存続が困難になる。

**「学ぶ・育てる」**

- 若者の減少、少子化に伴って子どもが減少し、学校の存続が懸念される。
- 小・中学校の統合を検討する必要があるが出てくる。

**「住む・交わる」**

- 空き家が増加する。
- 未婚者の増加に伴って子どもが減少し、単身世帯の増加、更に独居老人世帯の増加に繋がる。

**「老いる・治す」**

- 在宅介護が困難になる。
- 独居・高齢者世帯が増加し、安否確認や緊急時の対応が困難になる。
- まだまだ介護施設等が足りないと感じており施設の充実が求められるが、将来、人口が減少した時に施設の運営等が懸念される。
- 身近な商店等が閉店し、高齢者の買い物の負担が増加する。

**「つくる・残す」**

- 緑溢れる快適な生活環境を守れなくなる。
- 祭り等伝統文化を引き継いでいくことが困難になる。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望****「働く・関わる」**

- 働く場所や子育て世代の働く環境が充実している。
- 祭りなど地域活動により地域の絆が深まっている。
- 自治会組織が機能し、役員の負担も軽減されている。
- 若者が残ってくれる。帰ってくる。溶け込んでくれる地域。

**「学ぶ・育てる」**

- 子育て環境が整っている地域（大学等の教育機関、医療費などの経済的支援、産休・育児休暇等制度、放課後の支援、公園など）。
- 生涯学習環境が整っている地域（地域の拠点となる公民館が整備されている）。

**「住む・交わる」**

- 空き家の利活用等によりU I ターン者が増加する。
- 安全・安心に暮らせる地域。
  - ・道路等整備が進み、交通安全対策が充実している。
  - ・街灯や防犯カメラの設置等による防犯対策が充実している。



- ・防災備品の整備等により自主防災会機能が充実している。
- 公共機関、金融機関、医療機関、商店などが身近にある現環境が持続している。

#### 「老いる・治す」

- 高齢者、要介護者等が安心して暮らせる地域。
  - ・医療機関や介護施設が充実している。
  - ・サロンなど交流の場があり楽しく暮らせる。
  - ・独居・高齢者世帯の安否確認や緊急時の対応が、隣近所でできる。
  - ・気軽に助けたり、助けられたりできる。
  - ・身近な商店、移動販売車、買い物支援などが充実している。

#### 「つくる・残す」

- 桜並木やイチョウ並木、中央公園など、緑のある住環境を大切にしたい。
- 大宮諏訪神社や東野大獅子に代表される祭りや伝統文化を守り引き継いでいきたい。

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

- 子育て環境が整った、若者が定住できる地域を目指す。
- 生涯にわたって、地域の歴史や文化を学習できる地域を目指す。
- 安全安心な地域を目指す。
- 高齢者等が安心して暮らせる地域を目指す。
- 住環境や伝統文化等を守っていく。

### Ⅳ 未来ビジョンを実現するための計画

#### 「働く・関わる」

- 行政、事業者等と連携しながら雇用の場の確保を進める。
- 自治会の統合を含め、組織の見直しを進める。
- 祭り等伝統文化や日常の活動を通じて地域の絆を深めていく。

#### 「学ぶ・育てる」

- 放課後子ども教室など地域全体で子どもを守り育てていく。
- 公民館を地域の拠り所とし、活動に積極的に参加していく。

#### 「住む・交わる」

- 空き家の利活用による住宅確保や、結婚支援、子育て支援を推進する。
- 行政と連携しながら、交通安全・防犯・防災対策を進める。

#### 「老いる・治す」

- お隣近所の見守り・助け合いにより高齢者が安心して暮らせる地域づくりを進める。

#### 「つくる・残す」

- 桜並木やイチョウ並木、中央公園など、緑を大切に守り育てていく。
- 世代間交流により、祭り等伝統文化を後世に守り引き継いでいく。

**I 人口変動による影響****「働く・関わる」**

- 仲良く共に暮らしていくという発想への転換がなければ、リニアが開通し外から人が来ても交流はうまくいかない。
- 地元に魅力ある企業・産業がないと、若い世代が出て行ってしまう。
- 若い人材が減少すれば、地域が衰退し、自治会活動も高齢者に集中し負担が増す。
- 農業では、担い手の高齢化や後継者不足、それに伴う遊休農地が増加する。

**「学ぶ・育てる」**

- 高齢者が増加し、生涯学習への要望が増え、高齢者の集える場所、憩える場所が必要になる。
- 高齢者の増加により、地域内のより近くに医療施設・福祉施設が必要となる。

**「住む・交わる」**

- 高齢化が進み、空き家が増加する。
- 生活環境や産業振興の点から、生活道路・水路の整備促進が必要となる。
- 定住・交流人口の増加も考えられるため、住居や交通などの環境整備が必要となる。

**「老いる・治す」**

- 高齢化の進展とともに交通困難者や買い物困難者が増加する。
- 核家族化等の家族構成の変化により、高齢者の独り暮らし、老々介護の世帯などが増加する。

**「つくる・残す」**

- 座光寺の誇る自然・歴史・文化の価値を再認識する活動を行っているが、ライフスタイルや価値観の多様化のなかで、これら誇るべき財産への関心が希薄化する懸念もある。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望****目指す将来像**

文化と歴史薫る・心豊かに暮らせる「麻績の里 座光寺」 ～自ら考え行動する里づくり～

将来像実現のための主要な施策を次の6つの「里づくり」に体系化し、住民自ら考え自ら行動することを里づくりの基本姿勢として、「文化と歴史の薫る・心豊かに暮らせる『麻績の里 座光寺』」を目指します。

- 1 『心通い合うふれあいの里づくり』
- 2 『地域を愛し自ら行動する人が育つ里づくり』
- 3 『自然・歴史・文化の誇れる里づくり』
- 4 『快適で、安心・安全なやすらぎの里づくり』
- 5 『地域の特性が光る活力ある産業の里づくり』
- 6 『麻績の里づくりを支える基盤整備』

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

#### 「働く・関わる」

- 若者やU・Iターン者に魅力のある職の確保を目指して、希望を持って働ける企業の誘致と受け入れられる環境を整え、地元への定着を図る。**(地域の特性が光る活力ある産業の里づくり)**
- 特色ある農業を継承しつつ地元特産の創出や、生産から加工、販売、商品開発までを一貫するような新たな魅力ある農業を推進する。**(地域の特性が光る活力ある産業の里づくり)**

#### 「学ぶ・育てる」

- 子育て支援の充実を図り、これからの地域を担う人材の育成を推進するとともに、世代を問わず皆が学び合える世代間交流の機会や講座を大切にし、学習の場を子どもから高齢者まで幅広く提供する。**(地域を愛し自ら行動する人が育つ里づくり)**

#### 「住む・交わる」

- 自然を活かした住宅環境、菜園付き住宅、アルプスを望む絶景住宅など、都会の人が住みたくなるような住宅環境の整備を進める。**(麻績の里づくりを支える基盤整備、リニア基本方針)**
- 高齢化社会の進展のなか、介護や福祉の充実を図るとともに、若い人たちが住みたいと思えるように子育て支援住宅整備や周辺環境との調和、地域住民の利便性の確保、地域振興への配慮のあるインフラ整備を推進する。**(麻績の里づくりを支える基盤整備、リニア基本方針)**

#### 「老いる・治す」

- 高齢者が地域活動や仕事で生き生きと生活することができ、かつ健康寿命も長く、世代間交流などの活動を通して地域の活性化に役立つことができる環境づくりを推進する。**(快適で安心・安全なやすらぎの里づくり)**
- 高齢者が快適で安心できる暮らしを守るため、医療機関や介護施設の充実を推進する。**(麻績の里づくりを支える基盤整備、リニア基本方針)**

#### 「つくる・残す」

- 数ある資料の整理や座光寺の資源・伝統文化を保護、活用し、それらを後世に引き継ぐためにボランティアガイドなどの地域の語り部を育成する。**(自然・歴史・文化の誇れる里づくり)**
- 地域の自然や歴史、伝統文化を再認識し、若い世代や都会の人たちを巻き込んで活性化・継承をしていく。**(心通い合うふれあいの里づくり)**
- 様々な年代の文化財が集積している当地域の立地を活かし、恒川遺跡群～高岡古墳～元善光寺～舞台校舎～南本城城跡などを巡る「麻績の里文化ゾーン」と結びつけ、観光客の誘致を促進したい。さらには、それらを見たり触ったりできる施設の建設をして、地域の歴史や文化の学習の場を提供する。**(地域の特性が光る活力ある産業の里づくり、リニア基本方針)**

#### IV 未来ビジョンを実現するための計画

- 1 「心通い合うふれあいの里づくり」
  - ・ 参画・協働の自立の輪を広げます
  - ・ 地域への帰属意識と郷土愛を高めます。
  - ・ 心を繋ぐ交流の場を増やします。(人と人とを結びつけるネットワークづくり)
- 2 「地域を愛し自ら行動する人が育つ里づくり」
  - ・ 地域に学び、体験を通して地域を愛する心を育てます。
  - ・ スポーツを振興します。
  - ・ 生涯学習を推進します。
  - ・ 子育て支援を充実します。
  - ・ 学校と地域社会の連携を図ります。
- 3 「自然・歴史・文化の誇れる里づくり」
  - ・ 山や川の自然を守り、活かします。
  - ・ 歴史・文化を保存し、継承します。
  - ・ 交流と学習を通して、新たな文化を創造します。
- 4 「快適で、安心・安全な安らぎの里づくり」
  - ・ 温かい福祉の里をつくります。
  - ・ 長生きできる健康づくりに努めます。
  - ・ 社会のルールを守り合います。
  - ・ 環境衛生に心を配り合います。
  - ・ 災害に備える里づくりに努めます。
- 5 「地域の特性が光る活力ある産業の里づくり」
  - ・ 特色ある農業を継承し新たな魅力ある農業を推進します。
  - ・ 若者の定着につながる商工業を活性化します。
  - ・ 魅力ある森林づくりに努めます。
  - ・ 地域の魅力を活かした観光の里を目指します。
- 6 「麻績の里づくりを支える基盤整備」
  - ・ 基幹道路・生活道路の整備を促進します。
  - ・ 生活環境を整備します。
  - ・ 調和のある土地利用を進めます。
  - ・ 災害に備える施設・設備を整備します。
  - ・ 老人福祉・子育て支援施設の充実を図ります。
  - ・ 自然に親しむ公園を整備します。



**I 人口変動による影響**

松尾地区でも、中山間地域に比べれば減少率は低いと思うが、人口は若干減少すると予想する。また、少子化・高齢化の進行することにより、人口構造が変化する。特に生産年齢人口の減少が地域に与える影響は大きく、地域の元気が失われる可能性があると予想する。

## ①人口減でどう変わるか

- ・小売業、飲食店など生活関連サービスの減少、空き家や耕作放棄地等の増加

## ②子どもの学びがどう変わるか

- ・小中学校の児童生徒数は減少し、空き教室の増加、地区行事への参加が減少

## ③高齢者の暮らしがどう変わるか

- ・独居、要介護の高齢者の人数が増加する一方、就業する高齢者も増加

## ④地域の活動の姿はどう変わるか

- ・地域活動の担い手が不足し、地域コミュニティの機能や防災力が低下

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望**

日本全体が人口減少時代に突入し、少子化・高齢化が急激に進行する中であって、松尾地区は、先人の努力により、市内でも有数の暮らしやすい地区として発展し、活気ある地区となっています。

リニア中央新幹線の開業と三遠南信自動車道の全線開通が現実のものとして迫ってきている今、松尾地区としてもリニア時代を見据えて行動することが重要であり、個性的で存在感があり、安心して住み続けられる地域づくりを着実に進める必要があります。

## &lt;松尾地区の優位性&gt;

- ①温暖な気候と豊かな自然環境
- ②公共施設等の集積と交通網の結節点
- ③多種多様な産業の集積
- ④教育と文化を重んじる気風

## &lt;目指すまちの姿&gt;

「一人ひとりが輝く元気なまち 松尾」

- ①活気ある経済活動が持続し、経済的に安定し、暮らし続けることができる元気なまち
- ②子どもから高齢者まで一人ひとりが輝き、いきいき・わくわくして生きていけるまち
- ③健康でやさしさのあふれる、安心・安全なまち

**III 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)**

目指すまちの姿「一人ひとりが輝く元気なまち 松尾」を実現するための重点的な取組の方向性

- ①経済活動が盛んなまちを実現する。
- ②子育てがしやすいまちを実現する。
- ③交流と学びのあるまちを実現する。
- ④安心・安全なまちを実現する。

#### IV 未来ビジョンを実現するための計画

##### 1 活気ある経済活動が持続し、経済的に安定し、暮らし続けることができる元気なまちの実現に向けて

###### ①経済活動の活性化

- ・様々な組織・分野の連携による雇用の創出（働く場の確保）
- ・主要道路（国道 151 号・256 号、産業道路等）の整備
- ・計画的な土地利用の推進（農業振興と宅地開発のバランス）
- ・賑わいの核である八幡商店街の活性化

###### ②子育てしやすい環境の整備

- ・子育て・共働き世代に対する支援の推進（託児の充実等）
- ・地域の子どもは地域で育てるための教育支援の推進（小・中学校等に対する支援、寺子屋事業等）
- ・移住・定住のための情報等の提供

##### 2 子どもから高齢者まで一人ひとりが輝き、いきいき・わくわくして生きていけるまちの実現に向けて

###### ①地区内外の交流活動の推進

- ・公民館（本館、分館）活動等による住民交流の推進
- ・交流の場（縁側サロン等）のあるまちづくりの推進
- ・豊かな自然環境等を活用した交流事業（観光等）の推進
- ・スポーツイベント等の実施による松尾総合運動場の活用

###### ②学びの環境の整備

- ・地域を支える人材の育成（高校生・短大生等、女性の参画推進）
- ・コミュニティスクール（地域に開かれた学舎）の推進
- ・住民自らが地域課題を学ぶ仕組みづくり

##### 3 健康でやさしさのあふれる、安心・安全なまちの実現に向けて

###### ①健康で支え合う環境の整備

- ・生涯現役のための健康事業の推進
- ・空き家、空き店舗の有効利用（都市部の高齢者を受け入れる介護施設等）
- ・ボランティア活動等への積極的な支援
- ・要援護者（独居高齢者等）の支え合い活動の推進

###### ②安心・安全な生活環境の確保

- ・内水排除（雨水）対策の推進
- ・防災体制の強化



**I 人口変動による影響****1 働く・関わる（産業、労働、社会活動など）**

- ・保育園や小学校の統合が必要になり、通学、教育等の問題が出てくる。荒廃農地が増えて空家も増える。商店がなくなる。高齢者が多くなる。
- ・勤務先、自営者の規模拡大・商店は減少？ 大型商店拡大と通販の増加？
- ・農地や空き地は藪や荒れ地、雑木林
- ・空き家の増加、一人暮らし・高齢者のみの世帯の増加
- ・隣組の統廃合、自治組織の整理統合
- ・防災・福祉組織の弱体化

**2 学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援など）**

- ・子どもの人数減少により、保育園小学校が近隣と統合、若者の定住者も減少
- ・保育園・学校は現状維持

**3 住む・交わる（人口政策、自治会活動、住宅インフラ整備など）**

- ・農振農用地でも坂畑が多く、実際は荒れ地となってしまう。
- 昔と違い親の面倒を見るべきとの教育がない。行政としても計画に限界がある。食べていくこと、自分の土地を荒らさないことで手いっぱいな感がある。
- ・地域の行事、活動が少なくなり、簡略化される。高齢者、独居者への対応が重点となる。大小の区があり、人数、年齢にばらつきがある。役職の調整が必要になる。人数が少ないと毎年役員になる。自治会活動は、防災など何かあった時に必要である。市役所支所との結びつきの機会ともなる。各区の活動、公民館分館の活動も難しくなる。ザゼンソウ保全組織は 10 年先どうなっているか。旧瀧沢医院も明治村へ寄附するなどしないと維持が難しくなる。
- ・現在は、自治会の頃より活動が盛んで区長の役割が増えている。
- ・空家は増えていくが活用は困難。

**4 老いる・治す（医療、介護、福祉、高齢者など）**

- ・介護する子ども（若者）の減少し、高齢化が進み、高齢者世帯とひとり暮らし世帯が増加
- ・空き家の増加

**5 つくる・残す（事業、環境、文化など）**

- ・不法投棄があっても拾う人・監視する人がいなくなる。
- ・希少動植物を守る人、伝えていく人がいなくなる。
- ・農地や空き地は藪や荒れ地、雑木林
- ・空き家の増加、高齢者のみの世帯の増加
- ・隣組の統廃合、自治組織の整理統合
- ・防災・福祉組織の弱体化



## Ⅱ 地区未来ビジョン・地区人口展望

### 1 働く・関わる（産業、労働、社会活動など）

- ・小学校が残り、子どもの声のする地域。荒廃農地をなくし植林等で緑豊かな里づくり。
- ・竜西に仕事に出て、通勤にも近く静かな竜東に住宅を置く。
- ・人口は3,200人程度。又は3,000人以上
- ・自然と農地の保全・拡充
- ・小規模の農家や伝統産業への支援充実
- ・空き家・空き地対策を充実させる取組
- ・自治体・防災・福祉の組織の集約化と充実

### 2 学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援など）

- ・子どもと親が安心して暮らせるような地域
- ・就学前の親子が楽しめる環境
- ・親と子、孫が近くに暮らせる環境（高齢者と子どもの関わり）
- ・実現したい人口規模は、小学校一学級25名程度、地区人口では現状3,000人維持したい。
- ・通学路・生活道路の安全施設充実
- ・保育園・小中学校の教育の充実と保護者教育の充実
- ・「我が学校」という意識で、子どもも保護者も学校環境作りに参加する地域としたい。

### 3 住む・交わる（人口政策、自治会活動、住宅インフラ整備など）

- ・安心、安全でゆっくり休める土地があること。故郷に帰ってきた時に、家が建てられる。（家族に住んでもらえる）
- ・飯田に働き場所が必要。（働く場は竜西、下久堅はベッドタウンとして）
- ・子ども、孫が戻りたいと思う地域にできるか。
- ・コンビニ1つ位誘致を。健康維持。
- ・常会の結びつきを強め、助け合う。他地区や異文化との交流化により活性化される。

### 4 老いる・治す（医療、介護、福祉、高齢者など）

- ・親と子、孫が近くに暮らせる環境（高齢者との関わりが子どもの成長に必要では？）

### 5 つくる・残す（事業、環境、文化など）

- ・実現したい人口規模は、小学校一学級25名程度、地区人口では現状3,000人維持したい。

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

#### 1 働く・関わる（産業、労働、社会活動など）

- ・リニア、三遠南信道開通で下久堅を通過する車両、人が多くなると予想される。足を止めてくれる場所づくりを考えていく。
- ・リニア、三遠南信道開通で南信の人口が減るようではだめ。こちらに来てくれるようイベント、里づくりを地域全体で目指す。交流人口を増やす。
- ・リニア開通により首都圏に近くなるので、体験農業、里山体験、荒廃地への植林、紙すき体験など。（都会の人は自然とのふれあいを望んでいる）
- ・過度な人口増加ではなく、上記人数（3,000 人）が確保できるよう、また、一時的な滞在ではなく生涯にわたって定住する人口増加を見込みたい。
- ・自然やこの地域の良さを生かすことで、毎年徐々に人口減となることを目標にした対策を実施する。
- ・定住型の人口は、過度な人口増のないように留意した施策の実施
- ・飯山市の場合新幹線新駅設置による人口増が当初の 10 分の 1 になっているとの話もある。

#### 2 学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援など）

- ・開通しても、魅力ある交流事業が無いと人は他所へ流れてしまうのではないか
- ・交流人口は、小中学校や学生、大人の体験型、滞在型を目標に、受け入れ施設の拡充を図る。
- ・農家ででの農作業や保存会や地域住民を主体とした和紙や水引の体験、TOJ の自転車体験、天竜川船下り・ラフティング・筏下り、エコロジー体験活動への参加が出来るような文化教育活動を企画実施
- ・U・I ターン者の方々の取組視察研修実施、柿野沢の生活改善事業、北原の生産加工組合での見学実習 等を行うことで、交流人口を受け入れる可能性がある

#### 3 住む・交わる（人口政策、自治会活動、住宅インフラ整備など）

- ・下久堅の潜在的魅力の発掘。
- ・伊那、駒ケ根などと広域的な考えを（飯田経由で上高地なども）
- ・リニア開通で出ていく人が増えるのではないか。りんごを食べに来る人はあると思う。
- ・観光産業には良いと思うが一般産業にはどうか。
- ・可能性は、むしろ伊那、駒ケ根ではないか。
- ・都市部から来るのは高齢者と思われる。便の良い松尾などが住むに良いのでは。
- ・下久堅の魅力発見、魅力づくり。交流人口、観光客の増加。
- ・都会ではこのような自治会活動はできない。全国的には珍しい公民館活動は、地域にメリットがある。

#### 5 つくる・残す（事業、環境、文化など）

- ・ごみの不法投棄も増加する可能性もある。モラルを守る人間を育てる必要がある。
- ・美しい景観を観光化することも必要か。ただし、観光化することによって破壊されることのないようにする。

### Ⅳ 未来ビジョンを実現するための計画



## I 人口変動による影響

- 1 休耕地、耕作放棄地が増える。
- 2 空き家が増える。
- 3 団体の役員のなり手がなくなる。
- 4 地域や学校等の役員の負担が増える。
- 5 地区の伝統行事等の担い手が不足し、生涯学習の継続、文化活動等も難しくなる。
- 6 集落が維持できなくなる。成立しなくなる。
- 7 子どもが減少し、小学校が複式学級になってしまう。
- 8 保育園・小中学校について他地区との統廃合が検討され地区内の存続が懸念される。
- 9 独居老人の増加
- 10 買い物難民の発生
- 11 介護が必要になると、自宅で暮らすことが難しくなる。
- 12 見守りをしてくれる人(家族や近隣住民など)がいなくなり、自宅での生活の維持が難しくなり、さらに人口減少に拍車がかかる。

## II 地区未来ビジョン・地区人口展望

- 1 住んでみたい地域にする。
- 2 豊かな自然を残したい。
- 3 人(多世代)のつながりを将来も継続して残したい。
- 4 地区内に産業と働く場所がある。
- 5 温泉があるとよい。
- 6 休耕地を可能な限り増やさない。
- 7 農業が活性化している。
- 8 伝統行事を残したい。そのための組織が守られている。
- 9 小学校各学年 10 人以上は児童がほしい(少なくとも複式学級にならない2学年9人以上が必要)。
- 10 行政区で一つの地区内全員が通える小学校と、子育て世代のニーズにあった保育サービスの充実した保育施設が地区内にある。
- 11 スポーツ、クラブ、教室など人が集まりおしゃべりできる機会(生涯学習等)が地域にあり、交流がさかん。
- 12 子どもと高齢者の交流の場があり、地域の文化、古い遊びの伝承が行われる。
- 13 子どもたちみんなで遊べる公園が整備されている。
- 14 子育て世代が増加している。
- 15 買い物、除雪などのサポートがあり、高齢者が安心して暮らせる。
- 16 他所へ出なくても上久堅の中だけで暮らしていける社会
- 17 上久堅で最期まで生活できる。
- 18 健康で長生きできる。

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

- 1 ブランド化を含めた地域内の農業の振興
- 2 産品直売所の整備等観光産業の振興
- 3 企業誘致を進める。
- 4 隣接区(集落)との交流促進
- 5 (まちづくり委員会等)組織の見直し
- 6 あらゆる子育て世帯が安心してお金をかけずに子どもを育てられる地域づくり
- 7 生涯学習などやりたいことを共有する人が集う場所をつくり、自分たちが楽しむ活動が続ける。
- 8 伝統行事を継承し、みんなが地域行事に参加しやすい体制づくり
- 9 若者が夢を持ち、結婚し子どもを産み育てられる環境づくり
- 10 道路整備を進め、拠点へのアクセス改善、一般道路の危険箇所解消を図る。
- 11 災害対策を進める。
- 12 高齢者向けその他の共同住宅の整備
- 13 通学が不便であるという理由での地域離れを防ぐ。
- 14 空き家の整備、活用を進める。
- 15 同居やIターン等を促し、ともに支え合える状況を維持する。
- 16 上久堅診療所に医師が常駐する。
- 17 生きがいづくりをする。
- 18 今の伝統文化、行事を分館、集落の範囲を超えて地域全体で行う。
- 19 地区外へ伝統行事、お祭りなどのアピールを行う。
- 20 史跡、景観の保全整備を行う。

### Ⅳ 未来ビジョンを実現するための計画

- 1 U、I、孫ターンの促進
- 2 同居の促進
- 3 大規模事業者への農地の低廉な価格での貸与
- 4 農業の規模の拡大、効率化を進める。
- 5 季節労働者、農業体験希望者の受け入れを行う。
- 6 農業系クラブの活性化
- 7 農地バンク事務局を作るために法人組織をつくり、事務局で土地はあるが耕作できない人と、耕作したいが土地の無い人を仲介する。
- 8 特色ある農産物の栽培・販売
- 9 神之峰を中心とした観光の推進
- 11 介護施設、老人ホーム等の設置による働きやすさ及び働く場所並びに住みやすさを創出する
- 12 竜東の自然を生かした「テクノバレー構想」を進める。研究機関を誘致し人的交流を図る(つくば研究都市、「かんてんぱぱ」のイメージ)。
- 13 保育園、小学校、宅老所を近接したエリアに配置する。
- 14 幹線道路の整備等による働きに行きやすい環境づくり
- 15 (Ⅲの6の実現のため)共働き子育て世代のニーズにあった早朝保育・未満児保育・延長保育・土曜保育のある保育体制を整える。
- 16 (Ⅲの6の実現のため)遠距離の通園・通学を補う乗合バスなどを充実させ、子どもや保護者の負担を減らす。

- 17 (Ⅲの7の実現のため)地域で行われている活動を広報・クラブ通信などで定期的に発信し地域全体で共有する。
- 18 (Ⅲの7の実現のため)SNS(ブログ・フェイスブック・ライン)などで地域の情報を常に外部へ発信する。
- 19 (Ⅲの7の実現のため)年に数回体験会を開き、地区の良さをアピールする。
- 20 (Ⅲの8の実現のため)各地区で行われている伝統行事を把握し、地区全体へ周知しみんなで共有する。
- 21 (Ⅲの8の実現のため)なるべく多くの人が伝統行事に携われる体制をつくり、大人から子どもへ伝統行事を継承していく。
- 22 (Ⅲの9の実現のため)次のようなことによる若者が地域に残る、入ってくる魅力ある里づくり。
  - (1) 三遠南信交流で人やものの交流を増やす。インター周辺の直売所、民泊・農業体験、山村留学、畑付き住宅の提供。
  - (2) 子どもたちに地元に戻ってきたいと思ってもらう地域をつくる。
- 23 災害対策として住宅建築可能エリアの明確化を行う。
- 24 全市的な空き家バンク組織及び上久堅地区の空き家バンク組織(事務局)をつくり、空き家情報の共有、公開、積極的情報提供の実施を進める。
- 25 危険空き家の把握、倒壊危険家屋対策等空き家の整備を進める。
- 26 空き家内の荷物の片づけ、一時保管の補助・斡旋、譲り受け、グループホームとしての利用を行う。
- 27 空き家を一時滞在施設等として利用し、人的交流の活性化を進める。
- 28 独居老人向けの集合住宅又は寮及び子育て世代向けの賃貸集合住宅を作る。
- 29 小学校を高齢者その他の世代等の交流スペースとしての活用
- 30 小中学校(特に中学)のスクールバスの運用
- 31 高齢者に対する雪かきや買い物のサポート(移動販売の停留所を増やす等)を進める。
- 32 次のような十三の里の施設の活用
  - (1) 休日等の喫茶店、厨房を使用したパン屋、料理教室の開催など
  - (2) 配食事業の拡大、食料品等宅配事業の追加 買い物難民対策となる物品の販売
  - (3) 敷地を利用した産品販売、フリーマーケット等の実施
- 33 移住のための農振除外の迅速化
- 34 福祉企業センター及び既存の商店の活用
- 35 生きがいづくりのため、若い頃から、公民館活動や地域行事に参加する。
- 36 診療所の利用状況についての実態把握
- 37 みんなが集まれる施設についてのニーズ、可能な負担等についての把握
- 38 (Ⅲの18の実現のため)現状の地区内の行事の把握(アンケート、聞き取り)、検討
- 39 (Ⅲの19の実現のため)次の事項を行う。
  - (1) 上久堅地区をアピールするウェブサイトの充実
  - (2) 竜東地区を1つとしてとらえたアピールの検討
- 40 (Ⅲの20の実現のため)地区内に次の大きな公園を3つ整備する。
  - (1) 神之峰を中心にした森林公園
  - (2) 手作り遊具の里山公園
  - (3) 水辺の自然を生かした水辺の楽校



**I 人口変動による影響****1 <働く・関わる（産業、労働、社会活動など）>**

- 1-① 地域を維持できるだろうか。
- 1-② 農地や山林を維持できるだろうか。

**2 <学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援など）>**

- 2-① 子どもが減少し、保育園、小学校で共同生活を学ぶことができるだろうか。
- 2-② 伝統行事や地域をつなぐ行事は継続できるだろうか。

**3 <住む・交わる（住宅、インフラ整備、人口政策など）>**

- 3-① 単身高齢者が地域に多くなるが、安心して暮らしていけるだろうか。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望****1 <働く・関わる（産業、労働、社会活動など）>**

足元がしっかり固まっていて、多少不便だけれど豊かな暮らしを実現したい。

**2 <学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援など）>**

身近な地域活動の中で、若い人たちが年配の方の意見を聞きながら自ら発信できる地域にしたい。  
伝統行事や地域をつなぐ行事を残していきたい。  
年配の方から子どもまで顔が見える環境を守りたい。

**3 <住む・交わる（住宅、インフラ整備、人口政策など）>**

シニア千代村 ー良い仲（いい田舎）つくれるランドー  
（急傾斜地に住む老人を集めた集合住宅。短時間でも若い母親が働ける場所の創生。ITを活用したネットワークの構築。）

**4 <老いる・治す（医療、介護、福祉、高齢者など）>**

「健康で長生き」介護施設に集まるのではなく、“地域カフェ・交流カフェ”に絶えず人が集まり、一人じゃないんだと思える地域にしたい。

**5 <つくる・残す（事業、環境、文化など）>**

千代らしい自然、文化、人間性を大切に、住民が自信を持てる地区にしたい。  
若者が子育てしやすく、Iターン・Uターンを受け入れてくれる住みやすい地域にしたい。  
千代のいいところを磨き、千代と言えば〇〇をつくりたい。



### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

#### 1 <働く・関わる（産業、労働、社会活動など）>

- 1-① 地区内に小売店や病院などがあり自給自足ができる地域を目指す。  
居住環境の整備と、地域活動を行える組織づくりをする。  
若い人の意見も反映され、地元の行事に参加していく地域・組織をつくる。  
地区外から来た人が地域にすんなり入り込める風土をつくる。
- 1-② 土地を荒らさないための積極的な方策（定年退職者などの労働力を活用する組織づくり、荒廃地の使用希望者への提供 など）を打つ。  
地域の中の情報を積極的に発信していく。

#### 2 <学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援など）>

- 2-① 保育園、小学校などを地域で盛り上げ、環境を整える。  
子どもたちには「千代は素晴らしい、いいところだよ」と伝えていき、さらに若い人たちに住んでもらうために、閉鎖的ではなく、若い人たちの思いに前向きに寄り添えるよう年輩の方たちの意識改革をおこなう。
- 2-② 地域をつなぐ行事が継続されるよう環境整備をおこなう。（中心となる人は地区内から、周りで動く人は地区外から来てもらい、担い手を育てる。）

#### 3 <住む・交わる（住宅、インフラ整備、人口政策など）>

- 3 他にはない投資したくなるインフラ整備、人の需要が発生するインフラ整備  
道路や大きな建物ではなく、不便であるところを活かし、農村体験をしてくれる小学生、元気なシニアの方が山の中だからこそできることをPRした地域づくり。

#### 4 <老いる・治す（医療、介護、福祉、高齢者など）>

- 4 「生涯現役をめざした健康づくり」を浸透させる。  
ある程度の年齢になると、社会参画、社会貢献をしたいという気持ちを実現できる地域づくり。

#### 5 <つくる・残す（事業、環境、文化など）>

- 5 千代しゃくなげの会を地域で盛り上げ、子育てしやすい地域づくりをする。  
生活道路の整備（雪が降って通れない道をなくす。）

### Ⅳ 未来ビジョンを実現するための計画

## I 人口変動による影響

## &lt;人口変動により地区に与えられる影響、課題&gt;

## 1. 人が行き交う和みの地域づくり「憩」

- ・他地域との交流をするための地区内の団体の縮小による交流機会の減少
- ・人口減少により、定住希望者も減少

## 2. 便利で豊かで住みよい地域づくり「豊」

・【**農林業の振興**】リニア時代を迎えるに当たり、龍江のみならず、竜東の持つ自然や里山景観こそが、大都市にない貴重な価値となることは明らかである。したがって、龍江は農業を中心にした自然豊かな地区を今後も維持しつつ、経済面での生活の豊かさも追求できるよう、農業の高度化、たとえば”有機農法”などによる高付加価値化、他産業とのコラボによる6次産業化、さらには農産物のブランド化や輸出など、さまざまな施策を地区を挙げて推進していくことが求められる。

・【**観光振興**】天龍峡は単独では、観光地として規模的に小さいため、周辺の自然資産と一体として考える必要がある。それは、昔ながらの里山景観、絶景の飯田線、天竜川・万古川などのラフティングやキャニオニング、観光農業、体験農業、南アルプスの展望台の小川路峠・鬼面山などの伊那山脈、遠山郷、そして3,000Mの南アルプス、さらに各地の温泉や多彩な民族芸能など。天龍峡はその起点としてとても重要である。また、飯田線との連携も可能性大である。

・【**商工業振興**】龍江の企業は小規模だが、若く意欲のある経営者が大勢いる。各種の事業支援やファイナンス支援、他業種とのコラボなど意欲を活かす仕組みが必要。

・【**土地利用**】豊かな龍江の自然景観を維持するため、龍江土地利用計画に則り有効な土地利用を行う。特に開発予定区であってもよくよく自然景観に配慮する。

・【**生活環境の維持整備**】地区の道路・河川等のインフラについては、災害時の安全確保の面からも一層の充実が求められる。特に急峻な地形の龍江にとって、河川の護岸は早急な改良が求められる。近年豪雨災害が各地で頻発しており一刻の猶予もない。また、今後のIT環境の高度化に伴い、光通信・Wi-Fiなどの通信インフラの整備も欠かせない。ITターン移住者を誘致するためにも特に必要。

・【**若者定住推進**】竜東の集いで中学生の意見を聞くと、ほとんどの生徒が生まれ育った地区が大好きで、将来都会へ進学しても必ず帰ってきたいと言う。結婚や子育てに、自然がしっかり残り適度に便利な龍江はとても適した環境にある。今こそ田舎の良さを再認識するときである。

・【**地区拠点施設整備**】利用人口の減少が予測される中、現状の広さや機能が適切かどうかの判断が必要。

・【**広域交通網の整備促進**】インターが国道や県道に接する川路、千代、上久堅に比べ、龍江はアクセス道路が見劣る。インターの利用価値を高めるためにも、アクセス道路の整備は緊急の課題である。急峻な地形の龍江では、高規格道路を作ろうと思えば、掘割や土盛り、橋脚など、道路建設にはお金がかかる上、地形への大きなダメージが考えられる。したがって、高規格な新道にこだわることなく一部現道の拡幅や補修を含め現実的な対応も視野に入れて総合的な対応が必要。

## 3. 健康で生き活きと暮らせる地域づくり「活」

・【**高齢者・障害者福祉推進**】高齢者・障害者を支援する援護者（若い世代）の減少により、支援体制が整わない。高齢者同士が交流の機会も減少し、地域内での人間関係が希薄化する。

・【**子育て支援**】将来を担う子どもの減少により、地域の文化・伝統・環境維持が困難になり、地育力が低下する。子ども同士が交流する機会が減少し子どもの社会性が育たない。子育て環境は悪化し、子育て世代の市街への流失がますます進む。

- ・【健康増進】健康に対する意識の低下。推進事業のへの参加者の減少。
- ・【ボランティアの充実】ボランティア会員が減少し、それに伴うサービス支援等が不足する。
- ・【充実した住民福祉】公共交通整備の頓挫。若い世代の減少は出会いの場の減少に繋がり、ますます晩婚・未婚化が進む。

#### 4. 安全で安心して快適に暮らせる地域づくり「安」

- ・【自然環境の整備】周辺の自然環境に手はいらなくなり、環境の荒廃をまねく。
- ・【住環境の整備】環境汚染や廃棄物の量は減る。
- ・【景観条例】景観保全に努める余力が減る。
- ・【地球温暖化対策、エコ活動】高齢者が増加し、E C O活動の推進が遅れる。
- ・【地区内交通の研究】過疎化が進むので、それに対応した交通システムを構築する必要がある。
- ・【防犯対策】ひとり暮らし世帯や空家が増え防犯対策が重要になる。
- ・【防火対策】住居数が減少するので、消火設備は少なくなる。
- ・【防災対策】若者が減少し、防災対策を充実させることができにくくなる。また、隣近所も高齢化が進み、ひとり暮らし世帯も増え、コミュニケーションもとりにづらくなる。

#### 5. 思いやりを持って支え合う地域づくり「絆」

##### 【地育力、教育環境整備、自然及び伝統的文化資産の保存継承、地域コミュニティ形成】

- ・地域の歴史を語れる人が少なくなる
- ・地域全体で盛り上がる気運の低下
- ・子育て世代以外の家庭における、子ども・学校への関心の低下
- ・公民館利用者数の減少
- ・地域文化の担い手不足
- ・指導者の高齢化
- ・役員の固定化

## Ⅱ 地区未来ビジョン・地区人口展望

### 龍江地区の望ましい姿 「第3次龍江21構想」

だれもが住みたい地域 “みんなで創る 豊かで元気な住みよい龍江”

1. 人が行き交う和みの地域づくり「憩」
2. 便利で豊かで住みよい地域づくり「豊」
3. 健康で活き活きと暮らせる地域づくり「活」
4. 安全で安心して快適に暮らせる地域づくり「安」
5. 思いやりを持って支え合う地域づくり「絆」

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

#### <課題を解決するための方策>

##### 1. 人が行き交う和みの地域づくり「憩」

- ・複数団体の協働による交流の実施
- ・龍江出身者を中心とした発信

##### 2. 便利で豊かで住みよい地域づくり「豊」

- ・【**農林業振興**】問題解決には農業経営者自身が（兼業農家も含め）地区の特性を生かした持続可能な成長戦略を立案し実行していかなければならない。それには、今までの常識にとらわれない斬新な発想と強力な実行力が必要である。きめ細かく、小規模でも付加価値の高い農業や関連産業の育成を考えていく必要がある。
- ・【**観光振興**】天龍峡は、龍江や川路だけでなく、周辺地区や自治体も巻き込んで議論することが必要である。そうすることによって、四季を通じて皆が楽しめる巨大な観光ゾーンができる。中央アルプス・天竜川・南アルプステーマパークである。伊那谷はアメリカのグランドキャニオンにも匹敵するスケールがある。こんなすごい資産を活用しない手はない。
- ・【**商工業振興**】龍江の基幹産業はリンゴ狩りを中心にした農業・観光産業である。これと地域商工業が手を結べば、新たな可能性が生まれると思われる。
- ・【**土地利用**】高齢化の進行による空き家の増加を踏まえ、優良農地をつぶしての宅地化を極力抑制し、空き家の活用による自然景観確保をすすめる。
- ・【**生活環境の維持整備**】三遠南信自動車道開通後のアクセス道路は、国道・県道に接する、川路、千代、上久堅に比べ遅れていると言わざるを得ない。必要な道路の整備が必要である。一方、小規模な維持改修は、資材支給の利用などにより整備するなど、”できることは自分たちでやる”姿勢が大切である。
- ・【**若者定住の推進**】龍江の住民が、自分の故郷に自信と誇りを持ち、子供たちにも小さい時から龍江で暮らすよう、常々言って聞かせることが大切である。飯伊には優良企業がたくさんあります。大切な施策として空き家の活用や、地域振興住宅の活用により、龍江出身者のUターンや都市部からのIターンを進めていく必要がある。
- ・【**地区拠点施設の整備**】利用実態を精査し必要最低限の機能を持った施設として維持管理をしていく。
- ・【**広域交通網の整備促進**】龍江からリニア駅、飯田市街地、松尾、伊賀良方面へのアクセスについては、鷲龍峡兩岸の県道の整備が龍江のみならず、千代、泰阜にとっての生命線になる。具体化しつつある県道1号線の改良に全力を挙げることが重要。さらに、駄科方面への237号も、上川路で途切れている川路の250号も、引き続き改良や延長を進めることが龍江にとってリニアへのアクセス上特に重要である。

##### 3. 健康で生き活きと暮らせる地域づくり「活」

- ・【**高齢者・障害者福祉の推進**】高齢者等に対する支援体制の見直しや整備。地域コミュニティの強化。積極的に交流の場をつくり参加することで、近隣の住民同士の絆を深める。
- ・【**少子化歯止め、子育て支援**】子育て世代への経済的、精神的支援の充実化を進め、龍江地域内での定住を促す。また、地域外からの呼び込みを図る。
- ・地域の将来を見据え、個人、企業、行政が一体化し、地域全体で子どもを育てるという気持ちで支援する。
- ・【**健康増進**】健康寿命の延伸を目指し、地域にあった事業企画や、情報提供を進める。地域住民の健康への関心を高めるため、気軽に参加しやすいような小規模単位でのイベント等を企画する。
- ・【**ボランティア充実**】高齢者や女性など、幅広い層へのボランティア勧誘や声掛け。限られた人員で行うためのサービスの改善。
- ・【**充実した住民福祉**】将来を見据えたインフラ整備の推進。若い世代の意見を取り入れた婚活イベント等の

実施や支援。

#### 4. 安全で安心して快適に暮らせる地域づくり「安」

- ・【自然環境整備】地区外の人に来てもらう。遊休農地オーナー制度。竹林の整備。空き家対策。多くの人が集まり、憩う場所づくり。現状では、いろいろと制約が多すぎる。サイクリング、ウォーキングコースの整備。
- ・【住環境整備】ポイ捨て、不法投棄をやめるよう啓発活動を進める。ごみ集積所の管理とごみ出しルールの徹底。
- ・【景観条例の制定】三遠南信自動車道の早期の整備とアクセス道路の整備を行い、景観条例を制定して身近な環境の景観を守っていく。
- ・【地球温暖化対策、エコ活動推進】ごみの分別を徹底して、燃やすごみを減らすとともに、ごみの減量に努める。もったいない意識を啓発し、ごみを減らす。
- ・【地区内交通研究】健康寿命を延ばし、高齢者の健康度を高め、援助支援の程度を下げる。高齢者の要望（買い物、医療機関）に沿った、交通支援隊の設立（各区ごと）。ボランティアによる支援システムの構築。地域を区切り細かな要望を満たすような組織、運営を図る。危険道路の定期的な点検、補修システムの構築（道路の凸凹、道路沿いの倒木による交通障害等）
- ・【防犯対策の充実】地域防犯システムの構築。空き家による犯罪の可能性あり。行政指導による、空き家の解体、空き家斡旋等のシステム構築。
- ・【防災対策の構築】高齢者向けの新消火器（取り扱いが簡単で、軽量）、安全装置付きガスコンロ、ストーブなどの生活備品の普及啓発。減災のエキスパートの育成。

#### 5. 思いやりを持って支え合う地域づくり「絆」

- ・【地育力事業推進】地域住民の学校への積極的な関わりでの増進。学校との意見交換。子どもだけで無く保護者との関わり
- ・【教育環境整備】課題に対する共用の場の提供。誰もが使いやすい公民館の改修（バリアフリーなど）
- ・【自然、伝統文化資産の保全継承】芸能文化発表の場の確保。次世代への伝統文化の発信。
- ・【地域コミュニティ形成】新聞の毎月発行における、龍江全体の情報発信。HPでの情報発信を強化し、地区内外へのPR

### IV 未来ビジョンを実現するための計画

#### I 人が行き交う和みの地域づくり「憩」

三遠南信自動車道等の主要交通の整備による時間的距離の短縮で、龍江地区との交流はその機会が増加していく。そこで、いままで培ってきた農業体験や天龍峡などの地に根ざした観光資源を活かし、賑わいのある地域としての「交流の機会」を創って行く。

##### 1. あらゆる機会を捉えた交流の推進を図る。

三遠南信自動車道やリニア中央新幹線が開通し、中央道やJR飯田線を加えた広域交通網が確立されてくる。これにより、全国から龍江地区までの時間的な距離が大幅に短縮され、今以上の交流が発生すると考えられる。そこで、龍江地区にある多くの資源を有効に活用しつつ、また現在も行っている「りんごとみかんの交流（竜峡地区と静岡県浜松市三ヶ日地区の中学生による交流）」などの他地域との交流の輪を各層に広げていき交流の促進を図る。

##### 2. 交流から定住へ、人の滞留を試みる。

交流人口の増加は地域に活気と活性化をもたらす。交流によって生まれた人との繋がりを大切に、龍江地区への定住の働きかけなどを行うことにより、「人」の定着について研究していく。



## Ⅱ 便利で豊で住みよい地域づくり「豊」

三遠南信自動車道と龍江ＩＣを利用した観光や工業需要の掘り起こしなど既存の産業に加え新たな産業振興を進め、豊かで住みよい地域づくりを目指す。

また、若者が定住し元気な子供の声が響く活気ある地域となるよう、生活に不可欠な道路や水路の整備を促進し地域コミュニティの推進を図る。

### 1. 農業、林業の振興を図る。

農業従事者の高齢化、後継者不足、兼業化の進行、遊休荒廃地の拡大など農業を取り巻く状況は厳しいものがある。龍江地区における農林業は産業の基盤であることから、多角的な視野を持って振興を図っていく。

- ①農業生産基盤の整備や遊休荒廃農地の利用を促進する。
- ②都市と農村の交流を深め、交流が盛んな地域として発信し誘客を図る。
- ③新規就農者の支援を行い、後継者不足等の解消を目指す。
- ④森林資源の活用を図る。
- ⑤自然の恵みを荒らす有害鳥獣駆除等について、関係機関と協力し被害の軽減に努める。

### 2. 観光振興の支援を行う。

- ①天龍峡の観光の活性化に努める。
- ②観光とタイアップした観光農園の取り組みの支援をする。
- ③観光資源の発掘と整備推進を図る。
- ④「天龍峡さくら街道」の整備と支援を行う。

### 3. 商業・工業振興の支援を行う。

- ①企業誘致・雇用の場の確保に取り組む。
- ②既存商店等への支援

### 4. 有効な土地利用を策定する。

先人が守り育んできた文化や豊かな自然環境を持つ龍江地区を、住民が誇りをもって「住み続けたい」と思える持続可能な地域づくりに向け、土地利用計画の策定に積極的に取り組む。

- ①三遠南信自動車道開通を見越した土地利用計画の策定を行う。

### 5. 生活環境の維持整備を行う。

地域の生活を支える道路の重要性は変わりなく存在するものの、時代にあった効率の良い整備が必要となってくる。そこで、龍江地区における重要な道路を把握した上で、改良等について検討していく。

- ①地区民が行える小規模な維持改修等については、行政等の制度を利用しながら整備を進める。
- ②国県市道で改良等が必要な路線や河川・水路の護岸未改良部分の整備等については、地区内で精査しながら関係機関への働きかけを行っていく。

### 6. 若者定住の施策の推進をする。

- ①若者定着を図るため、魅力ある就労の場の確保や少子化対策への取り組みについて検討し推進していく。
- ②若者の意見・悩み・地域に対する要望などを汲み上げる機会や場所の提供等についても、合せて検討していく。
- ③地域定住のための住宅等の環境整備を推進する。

### 7. 地区拠点施設の整備を進める。

公共施設である龍江自治振興センター並びに公民館が、複数の機能を有する地区拠点施設として機能できるよう機能の強化や建設等を含めたあり方について研究していく。

### 8. 広域交通網の整備を促進する。

- ①三遠南信自動車道の開通により、地区内の交通量が増加することが予測される。そこで地区内の活性化と住民のニーズにあったアクセス道路の促進を要望していく。あわせて、国道や県道などの幹線道路の整備促進を関係機関に働きかけていく。
- ②2027年にはリニア中央新幹線が東京―名古屋間で開通予定である。龍江地区とリニア飯田駅を結ぶアクセス道路等のあり方について検討し必要な提言をしていく。

### Ⅲ 健康で生き活きと暮らせる地域づくり「活」

豊かな自然に恵まれた龍江地区にも、少子化・高齢化の時代を反映した福祉のあり方について今まで以上の取り組みが求められる。また、三遠南信自動車道の建設等、急速な環境変化がある中で福祉もそれに伴った課題や問題が起きてくることも考えられる。

特に独居高齢者、高齢者世帯等が増加するなかで、声掛け、見守りなどにより、地域で安心して暮らせる環境を皆で作って行くことが大切である。また、次世代を担う子供たちに、今まで以上に明るく、素直で、元気に育つ環境を作って行くことが大切である。

住み慣れた龍江地区で、住民が健康で安心して暮らせるように、住民同志の思いやりと助け合いの福祉活動を広めていくことを目指す。

#### 1. 高齢者・障害者福祉の推進を図る。

高齢者の人口比率は、10年後に40パーセントを超えることが予測される。そこで、高齢者・障害者が安心して生きがいを持って生活できる地域社会を目指す。

- ①独居者・高齢者世帯の支援を行う。
- ②地域を支える高齢者への支援を行う。
- ③デイサービスなど福祉施設の充実を検討する。
- ④障害者支援を積極的に行う。

#### 2. 少子化に歯止めをかけるため子育て支援を積極的に行う。

未来を担う子どもの減少は、龍江の将来にとって重要な問題である。子ども同士の交流や地域との交流の場を設けるなど、子どもたちの元気な声がいつも聞こえてくるよう育てを支援する。

- ①児童クラブの運営を行う。
- ②子どもの遊び場の確保を検討する。
- ③子どもの交流支援を行う。
- ④医療の充実についての働きかけを進める。

#### 3. 心と体の健康づくりのための健康増進を進める。

自分たちの健康は自分たちでつくり守り生きがいを持って暮らせる地域社会を目指す。

- ①健康推進事業の充実を図る。
- ②検診等の呼びかけを行う。

#### 4. ボランティアの充実を行う。

地域のみなさんにボランティア会員への加入を呼び掛けるなど、会員の増加を図り、配食サービスや送迎サービスなどのボランティア活動を推進する。

#### 5. 充実した住民福祉を進める。

- ①空き家の福祉施設への利用について検討する。
- ②公共交通の整備を検討する。
- ③結婚に向けての支援を充実していく。

### Ⅳ 安全で安心して快適に暮らせる地域づくり「安」

美しい自然や景観は私たちの暮らしや感性に潤いを与えてくれる。飯田市が環境モデル都市に選定され、気遣いの地域づくりという意識を高め身近な生活環境の美化に努めていくことが必要である。

龍江地区は自然環境保全地区に指定されており、自然環境の保全に努め存在する生態系の一員として、自然と人の営みの調和した住みよい環境を創って行く。

また、「住む」ためには、その場所において安らぎが必要である。安心感を持ち快適に暮らすためには、安全への意識を高めなければならない。そのため意識高揚とそれらに見合った設備の充実を図っていく。

#### 1. 自然環境の整備を推進する。

- ①森林や水動植物などのあらゆる自然生態との調和を進める。
- ②水辺の楽校等の整備美化に努め、地区民等の憩いの場所としての快適環境づくりを進める。

#### 2. 住環境の整備に努める。

- ①環境汚染や廃棄物処理など人々の暮らしや健康に直接関わる生活環境の改善に努める。

#### 3. 景観条例の制定を行う。

- ①三遠南信自動車道の開通を見据えた地域景観の保全に努め、快適な環境づくりを進める。

#### 4. 地球温暖化対策のため、エコ活動の推進を図る。

- ①ＥＣＯ活動の取り組みを応援する。
- 5. 地区内交通の研究を行う。
  - ①デマンド交通の研究やボランティア運転手の育成などを推進する。
  - ②安全な地区内交通のあり方について研究する。
- 6. 防犯対策の充実を図る。
  - ①地区住民の防犯に対する意識高揚や防犯設備の充実を図る。
- 7. 防火対策の充実を図る。
  - ①消火栓等の移設や増設を検討すると共に、各戸における消火設備の点検整備を随時行うよう意識の高揚を図る。
- 8. 防災対策の構築を図る。
  - ①災害における被害を最小限にするため、資材倉庫を兼ねた多目的倉庫の検討や災害危険箇所の把握、耐震診断への取り組み、非常持ち出し袋の全戸配布について検討する。
  - ②被災初期において、まずは隣近所で助け合ことが「命を守るため」に大切です。「ご近所」との日頃のコミュニケーションについて意識の高揚を図っていく。

## V 思いやりを持って支え合う地域づくり「絆」

高齢化、少子化の進むなかで、住民の日々の生活や生き甲斐に関わる地域課題を解決するために、広く学習という視点から各種事業を実施して、学びと体験を通じて子供から高齢者まで暮らしの質の向上と充実を図りながら、いつも思いやりをもって心豊かに安心して暮らせる住みやすい地域づくりの実現を目指す。

- 1. 地育力事業の推進を図る。
  - ※地育力とは：地域の資源を活かし地域の価値と独自性に誇りを持つ人を育む力
  - ①文化振興による知育力の向上を図る。
  - ②男女共同参画を推進する。
  - ③体育振興による地区の活力向上を図る。
  - ④青少年の健全な発育を支援する。
- 2. 教育環境の整備を進めていく。
  - ①生涯学習による教養の向上を目指す。
  - ②機能的な公民館の建設を検討する。
- 3. 自然及び伝統的文化資産の保全継承活動を推進する。
  - ①自然環境学習の拠点づくりを行う。
  - ②地域文化の継承を行う。
  - ③今田人形の保存と伝承を行う。
- 4. 地域コミュニティの形成に積極的な働きかけを行っていく。
  - ①地域行事や体験教育に積極的に関わっていく。
  - ②よりよい質を目指して、龍江新聞を発行する。
  - ③地域情報発信の基地となるホームページを作成する。





**I 人口変動による影響**

- ・竜丘の高齢化率は26.4%と市平均の29.3%より低く（平成25年4月1日現在）、市内でも若い世代の多い地域といえますが、近年出生率に変化はないものの、独居老人、高齢者世帯は確実に増加してきています。
- ・近年、住民自治組織の担い手不足と相俟って地域力の低下、また、高齢者世帯の組合脱退やアパート入居者等による組合への未加入など、自治の基礎単位である組合の未加入世帯が増加しコミュニティを維持することが困難な状況となっていくことが予想されます。
- ・様々な伝統文化や地域活動が行われた当地域でも、核家族化や高齢化の進展に伴い、現代社会の中で地域住民のつながりが希薄となり、伝統文化の継承や各種団体等のメンバーの世代交代などが大きな課題となってきました。伝統文化の継承や各種団体等の活動低下が懸念されます。
- ・昭和40年代に入り国道151号が改良されたことに伴い、竜丘地区の商工業の中心は、これまでの時又から桐林や駄科にシフトするなど大きく様変わりをしてきましたが、地元の小売店舗は、この10年間で10店舗程度に半減し、その多くは大型店や全国チェーン店などの価格競争に巻き込まれ経営的には厳しい環境が続いており、さらに人口減少や高齢化が進めば、買い物困難者の増加や市場の鈍化により店舗数はますます減少することが予想されます。
- ・竜丘地区における農地は、およそ340haありますが、10年間でおよそ2haの宅地化が進んでいます。一方専業農家は30戸余、兼業農家は120戸余を数えますが、担い手の高齢化、後継者不足、農業離れ等による耕作放棄地の増加と景観の悪化が懸念されます。
- ・竜丘地区で働いている全従業員数の4割は製造業で、その数は約1,300名余に達しています。中でも7割の従業員が桐林にある事業所で働いておりモノづくりの集積地となっていますが、リーマンショック以降、企業を取り巻く環境は大きく変化し、規模の大小にかかわらず常にグローバル化の影響を受けやすい環境にさらされており雇用の安定的な確保は難しくなっています。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望**

竜丘地区における未来ビジョンについては、竜丘地区基本構想の「ロマン溢れる学びの丘 共生のまちづくり」を掲げ、7つの丘づくりに取り組んでいきます。

- 1 住民の支え合いによる丘づくり
- 2 地域資源の保全・活用、景観形成による丘づくり
- 3 災害予防活動と豊かな人間関係による丘づくり
- 4 歴史文化の活用で人材育成を進める丘づくり
- 5 地域産業の振興と地域ぐるみ支援による丘づくり
- 6 秩序ある適正な土地利用による丘づくり
- 7 地域力の強化による丘づくり

※竜丘地区基本構想では、自由教育で培われてきた文化的土壌に基づく「4 教育文化」の分野と、飯田市第4次基本構想・基本計画の重点プロジェクト「環境と調和したまちづくり（天竜峡エコバレープロジェクト）」を引き継ぐ「2 景観・環境」の分野を重点に取り組みがスタートしているが、人口減少・少子高齢化問題を踏まえた時、教育・医療・生活環境が整い、特徴ある多種多様な産業が集積している強みを活かして「5 地域振興」分野を新たに重点に加えて、地域と事業者との連携を積極的に展開して地域の活性化を図ります。

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

#### 1 住民の支え合いによる丘づくり

今後ますます需要が増大する高齢者福祉や子育て支援などに対し、行政によるサービスだけに頼るのではなく、住民同士皆で支え合うという精神を大切に、地域できめ細かな取り組みを進めることにより誰もが安心して暮らせる社会を目指します。

#### 2 地域資源の保全・活用、景観形成による丘づくり

これまでのような大量消費・大量廃棄を続ける経済や暮らしを見直し、自然エネルギーの利用や省エネ・省資源の推進を図り、地域資源を守り活かすことを基本に置いて持続可能な美しい地域を創造していきます。

#### 3 災害予防活動と豊かな人間関係による丘づくり

隣近所で助け合い被害を最小限に食い止めることを基本に、日常的な家庭での備えや防災訓練を推進するほか、危険箇所や避難場所の周知などを図る取り組みを進めます。交通事故や火災防止に関しても日頃からの備えが大切なことから意識啓発や防災器具等の普及に取り組んでいきます。また、人間関係の希薄化や格差社会などの進展により、孤立化・精神的な不安を抱える人々が増加しており、日頃からの声かけや地域活動への参加を進め、豊かな人間関係が根付く社会をつくります。

#### 4 歴史文化の活用で人材育成を進める丘づくり

当地区には古墳や灯籠流しなど他に誇れる史跡や祭りのほか、大正時代の地域住民を中心とした自由教育活動を基盤とし、今日まで培われた自主自立の精神を貴ぶ社会教育活動の歴史を大切にして、社会の風潮や溢れる情報に流されるばかりでなく、特色ある歴史文化を守り育てるとともに、一人一人が自立した人間形成につながるように、これらを活かした学習活動や人づくりを進めます。

#### 5 地域産業の振興と地域ぐるみ支援による丘づくり

行政や事業者との連携により地域資源を活用した農、工、商、観光などの発展にも力を注ぎ、多分野で活力ある地域を目指します。また、食料・物資などの購入は地元商店を積極的に利用するなど、地産地消を地域ぐるみで展開していきます。

#### 6 秩序ある適正な土地利用による丘づくり

地区内には道路・河川の整備や下水道の普及が遅れているエリアも見られるほか、身近に子供が遊べる公園整備の要望も増加しており、行政と協力してこれら課題の解決を図っていきます。あわせて地域の土地利用の方針を見直し、地区内の自然を守り育てるとともに、人々が安心して暮らせる土地利用を進めます。特に、塚原二子塚古墳と桐林クリーンセンター周辺については、将来にわたって原風景が維持され、地区住民の拠り所となるよう地域ぐるみの取り組みを推進していきます。

#### 7 地域力の強化による丘づくり

人口減少と少子高齢化を迎え、様々な地域課題に対処していくためには、住民自らが考え行動できる住民自治組織にしていく必要があります。そのためには、住民同士がお互い知り合うことができる機会や交流の場を多く設け、組合加入を促進するとともに、これまで以上に、住民自治や市政等に関心が持てるような環境づくりを進めます。

#### IV 未来ビジョンを実現するための計画

##### 1 働く・関わる（産業、労働、社会活動など）

- ①地域の環境資源を組み合わせ、環境ツーリズム、グリーンツーリズムを展開する。
- ②集落営農による共同化を促進する。
- ③休日滞在型の農業体験のできる市民農園（クラインガルテン）を整備促進する。
- ④教育、医療、生活環境が整い、多種多様な産業が集積している強みを活かして働き手を確保する。

##### 2 学ぶ・育てる（教育、生涯学習、子育て支援など）

- ①高齢者（定年退職後）が子育てを日常的に支援できる体制を構築する。
- ②公民館や社会教育活動の充実を図り生涯にわたって学び交流できる場を提供する。

##### 3 住む・交わる（住宅、インフラ整備、人口政策など）

- ①空き家と遊休農地を組み合わせ、居住環境の整備し、田舎空間を提供する。
- ②災害に備え隣近所同士の目配り・声掛け運動を展開しながら、各区単位で防災力を高める。

##### 4 老いる・治す（医療、介護、福祉、高齢者など）

- ①買い物等困難者を支える仕組みを構築する。
- ②施設や道路のバリアフリー化を推進する。
- ③ボランティアなど福祉マンパワーを育成する。

##### 5 つくる・残す（事業、環境、文化など）

- ①良好な景観づくりのため地域ぐるみによる美化活動を促進する。
- ②ギフチョウをはじめとする動植物の保護活動を推進する。
- ③古墳群や児童自由画等の文化を保存継承する。
- ③自然エネルギーを推進する。



## I 人口変動による影響

## 「働く・関わる」

- ・いままでの地区の行事、地区の活動が負担になってくる。高齢化で行事への参加ができなくなる。
- ・後継者がいない地区内組織が発生する。
- ・一戸で、地域の役を何役も受けることができなくなる。
- ・区の合併が検討される。
- ・若い人に負担がかからないように、地区の行事や事業を見直す時期がくる。

## 「学ぶ・育てる」

- ・小中学校が統合されるか？（子供の数が特に減る）

## 「住む・交わる」

- ・地元の商店は閉店してしまう。観光や商工の団体も消滅するかも
- ・地元が管理している公園や道路の草刈などは、手入れができないところが出てくる。
- ・空き家が増える。
- ・ボランティア的活動をしてくれる人が減ってきて、相互扶助がむずかしくなる。
- ・組合費が減少するので、まちづくり委員会などの運営方法を見直す必要がある。
- ・自動車が運転できない人が増える。
- ・組合が機能しなくなる。

## 「老いる・直す」

- ・高齢者世帯や独居老人が増える。

## 「つくる・残す」

- ・伝統行事が無くなる。

## II 地区未来ビジョン・地区人口展望

※川路まちづくり委員会の平成23年度に策定した「地区目標・地区計画・土地利用計画」を踏まえ、飯田市次期総合計画策定に係る懇談会や諸団体の意見を集約し、改めて整理したものです。

## ◆実現したい川路地区の姿

子供が帰ってきて、住み続けられる豊かで活力のある安全安心な川路

## 「働く・関わる」

- ① 住民の皆が参加し、共に支え合う川路
- ② 地元企業や地域資源を活用した産業で、生きがいを持ってはたらける川路。

## 「学ぶ・育てる」

- ③ 誰もが気軽に仲間と学び楽しむ環境の下で、地域に誇りを持ち心豊かな人づくりができる川路
- ④ 豊かな自然や環境の下、地域ぐるみで子育ての幸せを実感できる川路

## 「住む・交わる」

- ⑤ 子供からお年寄りまでが、気軽に集い元気になれる川路
- ⑥ UI ターン者が住みたくなる、住み続けたくなる受け入れ体制がある川路
- ⑦ 若者の参画で感動的な交流ができる川路

## 「老いる・直す」

- ⑧ 地域の支えあいで、快適で安心して楽しく暮らせる川路

## 「つくる・残す」

- ⑨ 自然豊かな天竜川流域に心落ちつく美しい風景が残る川路
- ⑩ 歴史や伝統文化に親しみ、川路を誇りと思う心を育む川路

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

#### 「働く・関わる(社会・地域)」

- ①-1 住民一人ひとりがまちづくり活動に負担感が少なく無く、楽しく取り組めて参加したくなるような組織と事業の見直し、そして新たな仕組みづくり
- ①-2 誰もが気軽に活用できる地域内情報の共有や交流できる仕組みづくり
- ②-1 地元企業や農業などの地域資源を活用した多様な働く場づくり
- ①-3、②-2 女性や高齢者の活躍の場づくり

#### 「学ぶ・育てる」

- ③-1 学習した成果を地域で役立てられる仕組みづくり
- ④-1 子育て・保育環境(未満児、延長保育)の充実に向けた取組
- ③-2、④-2 地域コミュニティで子どもの育成支援ができる地域体制づくり

#### 「住む・交わる」

- ⑤ -1 既存施設も活用した、顔が見えて気軽に集えるたまり場づくり。
- ⑤ -2 地域住民が気楽に集え、地域が元気になる新たな総合交流施設の検討
- ⑤ -3、⑦-1 天龍峡周辺やエコバレーを中心に、住民も楽しめる地域活動や趣味の会、自然環境・文化・人材・施設などの特色を活かした体験や教育などの気軽なたまり場づくりと、それを担う人材の育成
- ⑦-2 天龍峡インター周辺地を活用した南信州地域の情報発信基地とイベントなどにぎわいづくりへの取組み
- ⑤-4、天龍峡温泉を活用した歴史文化・食・健康を融合させた地域づくりと情報発信
- ⑥-1 地区内外に地区の情報を提供し、転入者の受け入れを推進する体制づくり。

#### 「老いる・直す」

- ⑧-1 老後を元気に生きるための、健康づくりや生きがいづくりの取り組み
- ⑧-2 家庭や地域ぐるみで福祉意識を醸成し、安心できる高齢者や障がい者などを支える相互扶助の体制づくり
- ⑧-3 買い物時の交通手段などの困りごとに対応できる支援サービス体制づくり

#### 「つくる・残す」

- ⑨-1 自然豊かな環境の保全と人々が安心して暮らせる地域づくり
- ⑨-2 かわらんべ等の天竜川流域での、スポーツ、自然体験、自然学習、健康増進など、川路らしい活用方法の推進と、そのための環境の整備
- ⑨-3 花木植樹や屋外広告物特別規制地域などの景観美化にむけた「美しい川路」への取組み
- ⑨-4 山菜やきのこがとれる里山環境づくり
- ⑩-1 伝統行事や地域行事への愛着を高め、将来へ継承できる方法の検討

### Ⅳ 未来ビジョンを実現するための計画



**I 人口変動による影響**

- ・子どもの人数が少なくなると男女割合が不均衡になり、それによる様々な弊害も出てくるのではないかな。また、子どもの人数が減ってくると学校統合の議論になる。小学校がなくなると地域の活力やまとまりがなくなる。
- ・地区に学校がなくなると若者（子育て世代）は地区外へ居を移していくのではないかな。
- ・公民館活動を若者や女性が担っているのは三穂の特徴。人口減少で今の活動が出来なくなること地域活力が失われていくのではないかな。
- ・文化財（地域資源）は地域の宝であるという認識はあるが今の状況で守っていくことは困難。
- ・子どもの減少と共に伝統芸能は廃れていくのではないかな。
- ・果樹園などの専業農家も高齢化でままならない状況が予想される。
- ・地区の主産業である農業は兼業農家が支えている部分が多いが人口減少から農業から離れていくのではないかな。
- ・まちづくり委員会などの役員の選出が困難になり、自治活動が出来なくなるのではないかな。
- ・自主防災の要である消防団の活動が困難になるのではないかな。
- ・支援や介護の必要な方が施設を思うように利用できない状況になるのではないかな。
- ・空き家が更に増加していくのではないかな。
- ・遊休荒廃農地は更に増加し、素晴らしい農村の風景も損なわれるのではないかな。
- ・山林に対する意識が今以上に薄れていき整備が出来ないのではないかな。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望**

- ・若者が定住できる環境（高等教育機関や就労の場の整備）
  - ・子育て環境（小学校は現在の人数を確保していきたい。）
- ・UI ターン者を受け入れる環境
- ・地域の貴重な文化や地域資源を守っていく環境（次代に繋いでいける環境）
- ・地域の主産業である農業（専業、兼業、高齢者の農家の支援による維持）
- ・消防力の維持
- ・高齢者、支援や介護の必要な方が安心して暮らせる環境
- ・山林を守り活用していける環境

**III 地区未来ビジョンを実現する戦略（道筋）**

三穂に住んでみたい、住み続けたいと思う地域づくりを進めます。

- ①若者が定住できる地域づくりを進めます。
- ②地域ならではの農業を守ります。
- ③地域の伝統や文化、地域資源を地域の資産として守り繋いでいきます。
- ④豊かな人間性を育む青少年の育成活動やコミュニケーションの場づくりを進めます。
- ⑤子どもから高齢者が支え合い、安心して暮らせる地域づくりを進めます。
- ⑥持続可能で活力のある地域づくりを進めます。



#### IV 未来ビジョンを実現するための計画

##### ①若者が定住できる地域づくりを進めます。

- ・結婚支援を他地区との情報交換や共同で推進します。
- ・UIターン者のための住宅(地)の確保を、空き家(地)も有効に活用しながら進めます。
- ・ふれあい広場の整備などにより世代間の交流を推進します。
- ・乳幼児教育、家庭教育、食育を通じて子育て支援を推進します。
- ・必要に伴い、保育園の延長保育や児童クラブの延長開館の実現に取り組みます。
- ・地区内での就労の場を確保するため、進出可能な企業の受け入れ体制を整え取り組みます。
- ・保育園、小中学校、児童クラブとの連携により子どもの健全育成を図ります。

##### ②地域ならではの農業を守ります。

- ・専業、兼業の農家を支援し、農業後継者を確保します。
- ・里親制度の活用や農地等のあっせんにより新規就農者の受け入れる体制を整えます。
- ・遊休農地の有効利用を図り、中山間地の特性を活かした付加価値の高い特産品の研究や販路の開拓を進めます。
- ・耕作放棄地を活用するため、所有者や利用希望者の情報収集を行います。
- ・農地の有効活用のため、生産グループの育成や法人化などを検討し共同作業化を進めます。
- ・補助事業の活用による基盤整備や遊休農地の利用を推進します。
- ・三穂の柿を減らさず守っていくため、情報共有を行うと共に管理者を確保します。
- ・地元農産品の加工販売や特産品の開発を進めます。
- ・ワーキングホリデーや農業体験旅行を積極的に受け入れ、都市部との交流を推進します。
- ・地域内で農産品や加工品が消費される販路を構築します。

##### ③地域の伝統や文化、地域資源を地域の資産として守り繋いでいきます。

- ・地域資源の発掘を図り、資源の保護保全に向けた研究をします。
- ・地域全体で地域資源保護、及び管理に取り組む組織の構築を進めます。
- ・伝統芸能の保護・継承のため、指導者育成や後援会組織の支援を行います。
- ・郷土学習を推進し、地域への愛着を醸成します。
- ・地域の自然を継承するため、環境学習の推進と景観保護活動を行います。
- ・森林を整備し、森林資源の活用研究を図りながら豊かな自然環境を維持継承します。

##### ④豊かな人間性を育む青少年の育成活動やコミュニケーションの場づくりを進めます。

- ・各種グループ等の活動を育成・支援し、住民の仲間づくりを通じてふるさと意識の向上を図ります。
- ・スポーツ、文化芸術の振興を図ります。
- ・都市や地区外の団体との交流により活力のある地域づくりを進めます。
- ・公民館活動を充実し人と人との交流を図ります。

##### ⑤子どもから高齢者が支え合い、安心して暮らせる地域づくりを進めます。

- ・地域住民の声掛け運動や見守り活動を充実し地域の助け合いを強化します。
- ・自主防災連絡協議会や各種団体の連携により防災意識の向上や互助支援意識の醸成を図ります。
- ・自然災害に備え危険区域などの情報を周知して確実な防災、減災に対応できる体制を整えます。

- ・災害弱者（高齢者等）が有事の際に安心して過ごせる体制を整えます。
- ・消防団の重要性を認識し地域での支援体制を強化します。
- ・高齢者活動の支援や、高齢者福祉の充実を図ります。
- ・住民の心と体の健康づくりを進めます。

**⑥持続可能で活力のある地域づくりを進める。**

- ・地域住民の主体的なまちづくり活動を維持発展させるために、自治組合等の在り方を検証します。
- ・Ｉターン者を受け入れる土壌を作り出して、持続可能で活力のある地域を目指します。



**I 人口変動による影響**

## 「働く・関わる」

- 農業は、従事者の高齢化、後継者不足による、遊休、荒廃農地の増加。
- 商業、工業も、若い担い手が減り伸び悩み。
- 地方の都市化が進み、お隣同士の助け合いを基本とした共同社会の意識の希薄化。

## 「学ぶ・育てる」

- 晩婚化、未婚率の増大による少子化、それに伴い小学校や保育園での子供の確保に影響が出て、ひいては教員の確保、学校・保育園の存続が懸念される。
- しかし、逆に高齢化により、子育てに関わることができる高齢者や、生涯学習等に参加する高齢者は増える。

## 「住む・交わる」

- 単身世帯や未婚者の増加。空家の増加。
- 都会と近くなると価値観や考え方も都会に近くなる。
- 日頃の維持管理ができなくなり、水路が荒れ、氾濫の危険が高まる。

## 「老いる・治す」

- 高齢者の一人暮らしや高齢者世帯が増加し、寝たきりや認知症の高齢者も増加。家庭における介護力は低下し、更に地域内のつながりが希薄になり、地域でも見守れない。

## 「つくる・残す」

- 自然が多い山本だが、放置しては自然は荒れ果てる。
- 固有の文化や歴史があり、多くの伝統芸能、行事が今に伝えられる。語りついで守っていけるか。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望**

地域に立脚し地域を愛し、自然が豊かで環境が美しく、本当の豊かさや安らぎが感じられ、住みよく、人や物・情報の行き来が盛んでにぎわいのある地域を目指したいと思います。そして、目指す地区像を地域づくりの合言葉として掲げます。

「美しく、心豊かに、集うさと 山本」

この言葉を旗印に、地区内外を問わず、全ての人々が楽しめる地域、住んでよかった、来てみてよかったと言われる地域を皆で創出します。

**III 地区未来ビジョンを実現する戦略（道筋）**

## 「働く・関わる」

- 飯田山本インターチェンジの開設や三遠南信自動車道が開通したことを活用し、更に将来のリニア中央新幹線開通も視野に入れ、地域特性の尊重や時代要請への対応、産業融合化などにより、経営が安定し雇用が守られ、産業の発展する山本にしたい。（産業の発展する地域づくり）
- 地区住民が地区における諸政策の作成や実施に参加し、地区の特殊事情を生かしながら、住民相互が協議し合意を得て、地区の公共的な諸問題の解決を目指す山本にしたい。（地域自治の推進と交流の地域づくり）

## 「学ぶ・育てる」

- 子どもを育てることに希望と喜びを感じ、子どもとともに育ち学べる環境づくりのため、地域全体で、子どもを慈しみ抱え育てることを大切に、地域の力で子どもを守り、三世代間での愛の温もりが地域全体に響き合えるように、地域の若者が楽しい家庭を築き、子育てを大切に考え、地域の大切さを実感できる、ひとが育つ山本にしたい。（ひとが育つ地域づくり）

## 「住む・交わる」

- 三遠南信自動車道、飯田山本インターチェンジの他、国道 153 号南バイパスやリニア中央新幹線の開通も視野に入れ、地区全体の土地利用計画について議論を進め、住民の目線に立った土地利用計画を推進する住みよ

い山本にしたい。(土地を活用した住みよい地域づくり)

○人口減少、空家の増加などを新時代に備えた対策の必要や、災害などへの注意や備えを怠らず、安全に暮らせる山本にしたい。(安全に暮らせる地域づくり)

「老いる・治す」

○高齢者や障害者が生き生きと生活できる地域、子どもがのびのびと成長できる人情豊かな地域にするため、思いやり支えあう山本にしたい。(思いやり支え合う地域づくり)

○美しく快適な環境のもとで長寿を喜び合える健康で快適な山本にしたい。(健康で快適な地域づくり)

○恵まれた自然環境を生かし、老人福祉センター一帯を福祉エリアとして整備し活用したい。(拠点が整備された地域づくり)

「つくる・残す」

○身近な直地や緑化の普及を大切にし、自然が豊かで潤いのある山本にしたい。(自然が豊かで潤いのある地域づくり)

○自然豊かな山本の誇る里山と、飯田山本インターチェンジに近い杵原広場から城山を経て伊那谷道中に至る一帯を、地区の拠点として整備保全する。(拠点が整備された地域づくり)

○先人が築きあげてきた文化や歴史、伝統芸能を大切にする事は地域を愛することであり、地域の文化や歴史に触れて関心と愛着を深め、スポーツで健康な歯性を流し仲間づくりをお子なる山本にしたい。(文化や歴史、スポーツに親しむ地域づくり)

○伝統芸能、お祭り、御柱祭、久米城址、杵原広場、西部山麓地区の里山などの観光資源が豊富であることから、それらを利用し、体験をし感動を味わう体験・滞在型の観光を振興したい。(産業の発展する地域づくり)

#### 山本地区の10の地域づくり目標

○土地を活用した住みよい地域づくり

○健康で快適な地域づくり

○拠点が整備された地域づくり

○安全に暮らせる地域づくり

○自然が豊かで潤いのある地域づくり

○ひとが育つ地域づくり

○産業の発展する地域づくり

○文化や歴史、スポーツに親しむ地域づくり

○思いやり支え合う地域づくり

○地域自治の推進と交流の地域づくり

飯田市に検討いただきたいこと（主な意見から）

「働く・関わる」

○女性も含めた雇用の確保のための企業誘致と企業支援。

○農業への支援と、農地が農地以外へも利活用が進む対策

「学ぶ・育てる」

○小中学校、保育園の存続と無料化。小中一貫校。

○結婚支援と子育て世代への支援

「住む・交わる」

○153号南バイパスの早期完成

○公共交通機関の充実とアクセス強化により利便性の向上

「老いる・治す」

○高齢者、介護者支援

「つくる・残す」

○文化財等保存支援

○観光振興

## IV 未来ビジョンを実現するための計画

### 「働く・関わる」

#### ○産業の発展する地域づくり

##### ①特徴と魅力のある農業の振興

古くから市内でも有数の農業地域であり、山本が良質な農産物の代名詞となるよう、また、環境保全の意味からも、農業振興会議との連携を深めることにより農業を育て、特徴と魅力のある農業の振興を目ざしましょう。

##### ②地域と密着した商業の振興

国道 153 号及び旧国道沿線を中心に点在する商店街を拠点として、高齢化社会の進展に応じた大型店には真似できない心の通った地域独自の商店街づくりを目ざしましょう。そのために、商工会・商栄会・農協・農業生産者などが協力し、地域と密着した商業の振興を目ざしましょう。

##### ③ネットワーク化と環境の配慮した工業の振興

女性や高齢者も近場で働ける、環境の配慮した工業の振興や新たな企業誘致及び工場跡地の有効利用を目ざしましょう。

##### ④体験・滞在型観光の振興

伝統芸能、お祭り、御柱祭り、伊那谷道中、城山頂上の久米ヶ城址、杵原広場、西部山麓地区の里山などの観光資源を活用し、体験・滞在型の観光の振興を目ざしましょう。

#### ○地域自治の推進と交流の地域づくり

##### ①自治組織への加入促進と活性化

自治組織の意識を高めるとともに、加入を促進し活性化することを目ざしましょう。

##### ②各種団体の連携強化

地域自治は、いろいろな要素がありそれぞれが複合的な関わりを持っており、連携が欠かせません。各種団体の連携を強めることを目ざしましょう。

##### ③地域が以外との交流の活性化

今までの山本とは異なる環境や文化、価値観などを持つ人や企業との交流が活発な、開かれた地域づくりを目ざしましょう。

##### ④地域内外への情報発信

地域内外に山本の今を伝え、自治を推進し交流が盛んになるよう積極的な情報発信を目ざしましょう。

### 「学ぶ・育てる」

#### ○ひとが育つ地域づくり

##### ①若者の交流と連携

地域全体で若者同士のつながりや連携を重視し、若者が結婚しやすい環境を整えることや都市圏など他の地域に住む若者との交流を行い、山本の良さをアピールし若者の定住化を促進することを目ざしましょう。

##### ②若者の活動への支援

若者が地域に対して自由に意見を提案できる場を設け地域づくりの運営に新しい発想の意見や考えを取り入れることや若者が自らの発案や企画する活発な活動に対して地域づくり委員会として全面的な協力や後援など積極的にサポートする環境づくりを目ざしましょう。

##### ③子どもたちの自然体験学習の推進

家庭や地域での自然体験活動に対する考え方を更に深め、山本の自然を愛し、子どもの体全体で積極的にふれあえる自然体験を推進することを目ざしましょう。

## 「住む・交わる」

## ④学校と地域の連携

安心して子どもたちだけで登下校できる安全な地域づくりと、入学前から規則正しい生活習慣の定着を応援できる学校と地域の連携を目指しましょう。

## ⑤生涯学習の推進と地域づくりリーダーの育成

地域の皆が自分を育てる生涯学習に取り組むとともに、地域づくりのリーダーを育成することを目指しましょう。

## ○土地を活用した住みよい地域づくり

## ①調和のとれた土地活用

都市計画法や農地法などにより無秩序な開発を抑制し、地区全体が環境や景観に配慮し地域の特性を生かし調和のとれた、計画的な土地利用を目指しましょう。

## ②道路・河川・下水道の整備

地区内各種産業の発展・安心して暮らせる地域・良好な環境の創造のため、道路・河川の整備や下水道及び合併浄化槽の普及率向上を目指しましょう。

## ③公共交通の確保

地域として最低限の公共交通の確保と交通弱者対策を進め地域の特性に応じた改善を目指しましょう。

## ○安全に暮らせる地域づくり

## ①防火防犯対策の推進

消防団や防火防犯部会の組織や活動の強化など、防火防犯対策の推進を目指しましょう。

## ②交通安全対策の推進

幹線道路の整備に併せて、一般生活道路、交差点、歩道等の整備を進め、交通安全部会を中心に高齢者や児童など歩行者の安全対策に重点を置いた交通安全対策の推進を目指しましょう。

## ③防災対策の推進

自主防災連絡協議会の重要性について認識を高め、組織を強化し、飯田市防災ハザードマップや助け合いマップを活用し、いざというときのための訓練を積み重ねて活動の充実を図ります。

## 「老いる・治す」

## ○思いやり支え合う地域づくり

## ①高齢者や障害者・児童などの福祉の充実

高齢者や障害者、乳幼児や児童が安心して暮らせるよう、生活を総合的に支援し合える福祉の充実を目指しましょう。

## ②ボランティアの育成と活動の充実

行政などの公的援助だけに多くを期待できない社会経済情勢下において、ボランティアやNPOなど共に助け合う非営利活動が欠かせません。ボランティアの育成と活動の充実を目指しましょう。

## ○健康で快適な地域づくり

## ①健康づくりの推進

健康は生活の基本であり、長寿の礎である健康づくりの推進を目指しましょう。

## ②簡素で美しい生活環境づくりの推進

お互いが協力し合って、環境への負荷を減らし保全することにつながる簡素で美しい生活環境づくりを目指しましょう。

## ③消費者保護対策の推進

悪徳商法を追放し、正しい消費生活知識普及を図って、賢い消費者を目指しましょう。

## ○拠点整備された地域づくり

## ①老人福祉センター一帯の整備・活用

高齢化社会への対応として、マツやサクラ、ハナノキなどのある恵まれた自然環境を生かし老人福祉センター一帯を福祉エリアとして、宅老所などの拠点としての機能も持つ施設やマレットゴルフ場などを整備し活用することを目ざしましょう。

## 「つくる・残す」

## ○自然が豊かで潤いのある地域づくり

## ①里山の整備・保全

重要性が注目されている里山を整備・保全することで自然環境への理解や関心を高め、自然に触れる機会を増やすことを目ざしましょう。

## ②農林業体験施設の整備・活用

荒れがちな里山を整備保全する意味からも、また、農業の比較的盛んな土地柄や観光ニーズに合わせ、農林業の体験・研修・観光や古道の散策などができる施設や場所の整備や活用を目ざしましょう。

## ③公園の整備

憩いの場を求める声に対応し、子供から大人まで楽しめる多様な公園の整備を目ざしましょう。

## ④緑化の推進

皆が緑化に関心を持ち、家の庭や道路脇、公共施設をはじめ、むき出しの地面にも緑化を進めることを目ざしましょう。

## ○拠点整備された地域づくり

## ①城山・水晶山・伊那谷道中一帯の整備

歴史があり眺望のすばらしい城山頂上の久米ヶ城址は史跡であるとともに信州のサンセットポイント百選の一つに選ばれています。また、水晶山は新年の恒例行事となっている山頂での打上花火や遊歩道・森林整備による新たな観光スポットとして今後期待できます。伊那谷の観光メッカであるミュージアムパーク伊那谷道中を中心とするこの地域一帯を自然が豊かで情緒漂う観光エリアとして整備し活用することを目ざしましょう。

## ②杵原広場の活用と周辺環境整備

校舎や多目的ホールが整備された杵原広場は、地区の運動会・夏祭り・交流事業・スポーツ事業などが開かれ、地区住民の拠り所となっており杵原学校応援団の活動拠点としても利活用されています。また、飯田山本インターチェンジにも近く、地区外から訪れる人にも利便性が高いことから、杵原枝垂れ桜の保全や渡りをする蝶として有名なアサギマダラが好むフジバカマの植栽などの周辺整備、竹佐中原遺跡などの出土品の展示館設置も視野に入れ、地区外の人々との交流の場所として活用することを目ざしましょう。

## ③老人福祉センター一帯の整備・活用

高齢化社会への対応として、マツやサクラ、ハナノキなどのある恵まれた自然環境を生かし老人福祉センター一帯を福祉エリアとして、宅老所などの拠点としての機能も持つ施設やマレットゴルフ場などを整備し活用することを目ざしましょう。

## ○文化や歴史、スポーツに親しむ地域づくり

## ①文化や歴史。伝統芸能の保存と継承

長い間かかって地域が培ってきた文化や歴史、伝統芸能の大切さを認識し、これらを保存し、継承すること、その活動を通じて世代交流、地域内外との交流を進めることを目ざしましょう。

## ②スポーツの振興

青少年の健全育成や健康づくり、仲間づくりなどによる生き生きとした地域づくりのため、スポー



ツの振興を目ざしましょう。

## ○産業の発展する地域づくり

### ①体験・滞在型観光の振興

山本地区には、伝統芸能、お祭り、御柱祭り、伊那谷道中、城山頂上の久米ヶ城址、杵原広場、西部山麓地区の里山などがあり、観光資源に恵まれています。一方、観光も従来の名所見物、物見遊山的観光から、体験をし感動を味わう観光へと関心が移ってきたことから、体験・滞在型の観光の振興を目ざしましょう。

## I 人口変動による影響

- ・伊賀良地区においては、過去からの統計に基づく今後の人口予測によると、2015 年の 14,567 人から、2030 年には 14,682 人へと増加する一方で、少子高齢化が進行する見込みです。
- ・伊賀良地区における転入・転出の状況については、過去5年間の統計によると、128 名の転入超過となっています。しかし、これは 70 歳以上の高齢者の転入超過者数とほぼ同じであり、各種介護関連施設への入所者数とも考えられることから、他の年齢層については実質的には増加していないといえます。
- ・転出については、15～19 歳の、進学や就職の年齢層が最も多く、特に東京圏や中京圏への転出が多い状況です。
- ・転入については、20～24 歳、25～29 歳、また 35～39 歳の青年の年齢層が多く、特に市内他地区や下伊那郡内からの転入が多い状況です。また、25～29 歳においては、中京圏や県内、東京・中京圏以外からの転入が多いことから、いったん進学等で他所へ出て戻ってくる住民も多いことが見てとれます。
- ・現行の伊賀良地区基本構想は、平成 23～32 年(2011～2020 年)を期間として策定されており、具体的な人口予測はされていませんが、都市化による人口の増加、また少子高齢化を前提として立案されており、その実現に向けての人口変動の影響はそれほど大きくはないと考えられます。
- ・ただし、前出の人口動態の分析から、いったん地区を離れた青年層を呼び戻すため、また市内他地区や郡内町村等からの青年層の流入に対応するため、さらには少子高齢化の進行に対応するために、特に「社会基盤の整備」に関わる施策を、重点的に進めていく必要があります。

## II 地区未来ビジョン・地区人口展望

- 1 目指す将来像「緑輝き、人と文化が行き交うまち・伊賀良」
  - (1) 田園風景が残る豊かな自然に囲まれた伊賀良地区の地理的条件や特性を活かし、自然と共生したまちづくりを進めます。
  - (2) 先人たちが築き、培ってきたこの地域の歴史や伝統を尊重し、文化活動をより一層活性化させます。
  - (3) オリジナルの技術を育て、付加価値の高い商品やサービスを提供できる活力ある地域をつくります。
  - (4) お互いを支えあい、心の通い合う安心・安全で暮らしやすい地域をつくります。

## III 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

- 1 人に自然に優しい土地利用
  - (1) これからの土地利用を経済の拡大や効率面ばかりでなく、それ以上に自然への配慮や市街地への緑の創出などを基本とします。生態系のバランスを回復することや、人々の暮らしにとっても潤いのあるものとするため、「人に自然に優しい」を基本として進めます。
  - (2) 望ましい環境をつくるためには、調和のとれた土地利用が大切です。地域の特性を考慮した均衡と秩序のある土地利用を進めます。
  - (3) 当地区は西部に木曽境まで続く広大な山林を有しています。近年、全国的にも森林の多面的な機能を維持していくことの重要性がクローズアップされてきている事などから、多様で豊かな森を守り育てます。
  - (4) 道路や河川の整備は、地域の環境に大きな影響を及ぼす公共事業であることから、住民に親しまれる道路や水辺づくりを進めます。
- 2 誰もが安心して暮らせる地域づくり
  - (1) 私たちの今日の生活様式が、環境に大きな影響を与えていることから、低炭素社会実現のため、ごみの削減や自然エネルギーの利用など、身近な暮らしを変えていくような取り組みを、まず家庭から行い、そして地域へと広げていきます。

- (2) 凶悪化、低年齢化する犯罪に対しては、青少年の健全育成など地域ぐるみで取り組んでいきます。
- (3) 交通災害や火災の防止に対しては、一人ひとりの意識の高揚と関係者による普及啓発に努めていきます。
- (4) 自然災害に対しては、東海地震への備えを中心に、避難や発災時のスムーズな対応などについて、自主防災会の取り組みの充実を図っていきます。
- (5) 誰もが健康で生き甲斐がもてるように、関係団体による各種の事業を推進します。また、小さな頃から思いやりの心が育つような取り組みと、社会的弱者に対するボランティアネットワークの整備や、施設のバリアフリー化などを推進します。
- (6) 住民が健康に生活するため、生活習慣病の予防に取り組み、食生活の改善や体力づくりを進めます。

### 3 自然を大切に「地の利」を活かした産業づくり

- (1) 生産性ばかりではなく農林業の持つ多面的な価値を活かし、多角的な活用を図るとともに、地域ぐるみの取り組みや各方面の協力による後継者不足の解消に努めます。
- (2) 豊かな里山、雄大な眺望、豊富な農産物、地場産業の定着、インターチェンジからの容易なアクセスなど、伊賀良地区の特色や利点を活かした観光産業を積極的に推進します。
- (3) 大規模チェーン店などの地域環境への調和を推進するとともに、地元商店を盛りあげ、共存共栄を図っていきます。
- (4) 地域に根付く工業の更なる発展拡大と新技術の開発などにつながるような、社会資本の整備や交流などを推進していきます。
- (5) I・Uターンなどの積極的受け入れや、異業種間交流などを担う人材を育てていきます。

### 4 香り高い文化の創造

- (1) 伝統文化と新しい文化が調和し、より文化の香りの高い伊賀良地区を目指します。
- (2) 豊かな自然を活かし、創造性ある情緒豊かな人々を育てます。
- (3) 人々の交流により文化を創造する活力が生まれることから、世代、各地域、さらには外部との交流の場づくりを推進します。
- (4) 学校教育に体験学習やふるさと学習を取り入れ、ふるさとへの愛着心を育てていきます。
- (5) 住民すべてが豊かな教養を身につけ、地域を担う人材として活躍できるよう、生涯学習を推進します。
- (6) 住民ひとり一人が生涯学習の機会が得られるよう、環境、組織、施設づくりを推進します。

### 5 心が通い合う地域づくり

- (1) 「むこう三軒両隣」というように、自治あるいは地域づくりは、近所の人とのつながりから始まります。心と心が行き交うような顔の見えるつながりを目指します。
- (2) すべての住民が心を一つにして、笑顔の絶えない地域づくりを目指します。
- (3) 「心が通い合う地域づくり」を目標におき、各種の取り組みを進めます。その基本の柱を、「自治活動の輪を広げる」「共同意識の輪を広げる」「交流の輪を広げる」とし、それぞれの分野で自立と連携を基礎においた住民主体の各種の取り組みを進めます。

#### IV 未来ビジョンを実現するための計画

##### 1 人に自然に優しい土地利用

- (1) 調和のとれた土地利用を進めます
  - ア 良い環境を守る
  - イ 良い環境をつくる
  - ウ 地域の特性を活かした土地利用を進める
- (2) 多様で緑豊かな山を守り育てます
  - ア 動物が棲め、水を生み出す山林をつくる
  - イ 人々がふれあい親しめる山林をつくる
- (3) 親しまれる道路・水辺をつくります
  - ア 人に自然に優しい道路づくり
  - イ 地域の道路網の整備を進める
  - ウ 人々に親しまれ生き物の棲む川などをつくる

##### 2 誰もが安心して暮らせる地域づくり

- (1) 身近な環境を大切にします
  - ア ごみを減らし低炭素社会を推進する
  - イ 河川をきれいにする
  - ウ 公害をなくす
  - エ 身近な緑を育てる
  - オ 快適な環境をつくる
- (2) 社会ルールを守り災害に備えます
  - ア 犯罪や火災を防ぐ
  - イ 交通事故を減らす
  - ウ 自然災害に備える
- (3) 福祉まちづくりを進めます
  - ア 福祉環境の充実
  - イ 高齢者を支える
  - ウ 地域ぐるみで子供を守る
  - エ 障害者など社会的弱者を支える
  - オ 母子家庭・父子家庭を支える
- (4) 健康をつくります
  - ア 食生活を見直す
  - イ スポーツなどによる体力づくりを進める
  - ウ 生活習慣病予防を進める

##### 3 自然を大切に「地の利」を活かした産業づくり

- (1) 魅力ある農業をつくります
  - ア 農地を上手に活かす
  - イ 新しい農業の創造
  - ウ 新たな担い手を育む
  - エ 環境を守る農業を進める
- (2) 地域の特色を活かした観光産業を進めます

ア 自然や文化を活かす

イ 地場商品を活かす

ウ マーケットの拡大

(3) 森林を育て活かします

ア 各種林産物の育成と利用を進める

イ 自然探索の場として活かす

(4) 調和のある商工業を振興します

ア 大規模な事業所との協調

イ 地元商工業の活性化

ウ 21世紀に伸びる産業を誘致する

(5) 技術交流を進めます

ア 新情報技術開発の推進

4 香り高い文化の創造

(1) 文化の発見・創造と教育の充実を図ります

ア ふるさとの文化を知り伝える

イ 新しい文化を創る

ウ 交流とふれあいを広げる

エ 自然を体験する学習を進める

オ 教養と実践力を高める学習を進める

カ スポーツの振興を図る

キ 子供の自主活動を進める

ク 学校・家庭・地域の連携を進める

5 心が通い合う地域づくり

(1) 自治活動の輪を広げます

ア 住民の参加を進める

イ 柔軟で創造的な自治組織づくり

ウ 公平な責任と役割分担を進める

(2) 共同意識の輪を広げます

ア 広報活動を充実する

イ 美しい景観をつくる

ウ シンボルを活用する

エ 心のつながりを持つ

(3) 交流の輪を広げます

ア 地域間の交流を進める

イ 企業との交流を進める

ウ 行政などとの交流を進める

エ 団体活動を通じた交流を進める

**I 人口変動による影響**

鼎町が飯田市と合併して 30 年経過した。この間、地区人口は 40 人弱の減少程度であるが、鼎小学校の児童数は約 500 人、鼎中学校の生徒数は約 200 人、それぞれ大幅に減少している。しかし、世帯数では、約 1,000 世帯の増加となっている。人口は、ほぼ横ばいであるが、少子高齢化、核家族化が進行しており、これから先は確実に人口減少に転じていくことが予想される。

**① 組合加入者の減少**

- ・ 会費減少
- ・ 役員のなり手不足
- ・ まちづくり委員会活動（事業）への支障

**② 子どもの減少**

- ・ 小学校、中学校の統廃合
- ・ 伝統芸能担い手不足
- ・ 世代間交流等の希薄化

**③ 高齢者の増加**

- ・ 要介護者の増加
- ・ 交通弱者の増加
- ・ 就業高齢者の増加

**④ 商工業者・農業者の減少**

- ・ 空き店舗等の増加
- ・ 荒廃農地の増加（維持管理不能）
- ・ 後継者不足

**⑤ 空き家・空き地の増加**

- ・ 防火・防犯・治安の悪化
- ・ 景観への影響
- ・ 草木の繁茂による近隣への影響

**⑥ 地域活動**

- ・ 地域活動（消防団・婦人会等）の担い手不足
- ・ 伝統芸能存続の危機
- ・ 活力の低下

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望**

鼎地区は、飯田市街地と松川をはさんで位置し、従来から飯田市街の商業地域に対し、ものづくりと住民活動の盛んな地域として発展してきた。県下草分けの商工会活動や婦人会、青壮年、勤労者活動など先進的な住民活動を続けてきた。

住民活動やまちづくり活動の先進地として、各種課題解決に向けて、より多くの住民が、そして役員が本気になって取り組み、「住みよいまち、心安らぐまち」を作り上げていく。

**《実現したい地域の姿》**

『豊かで 潤いある 元気な 鼎』 ～ かなえよう 住みよいまち かなえたい 心安らぐまち ～

**【重点目標と重点課題】**

- ① みんなでつくる元気なまち
- ② 安心安全で活力あるまち
- ③ とともに支え合い助け合うまち
- ④ 自然を生かし暮らしやすいまち
- ⑤ 地域で学び地域で育つ文化あふれる心豊かなまち

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

《実現したい地域の姿》をかなえるための行動

#### ① みんなでつくる元気なまち

1. 地域コミュニティの充実・発展と地域間交流
  - ・まちづくり委員会の充実・強化
  - ・各区の活性化を目指すため、再編を含めた検討
  - ・各区や各種団体の役員数の活動しやすい組織のあり方の検討
  - ・組合未加入者への加入促進
  - ・各種団体や企業との連携
  - ・信州ふるさと鼎会や近隣地区との交流
2. 商工業を支援し、地域と商工業者が一緒にまちづくり
  - ・商工業者、農業者が一体となった地域の振興
  - ・地域の商工業者、店舗の利用
3. 農業者と地域が一緒になってまちづくり
  - ・地産地消の推進
  - ・観光と農業のタイアップ
  - ・子ども・児童・生徒が農業体験を通じて、農業の理解と食の大切さを学ぶ
  - ・遊休農地の市民農園等に活用し、農地と緑のある環境の保全
4. 土地利用計画、景観計画を策定し、秩序あるまちづくり
  - ・土地利用計画の策定
  - ・景観計画、緑の計画の策定

#### ② 安心安全で活力あるまち

5. 防災体制を強化し、災害に強い地域づくり
  - ・自主防災組織の活動の充実
  - ・防災資機材や防災施設の整備充実
  - ・非常排水路の整備と適切な管理
6. 治山治水事業の推進
  - ・松川水系の治山治水整備と松川ダム貯水保全対策
  - ・毛賀沢川護岸の全面改修
  - ・松川右岸河岸段丘の急傾斜地対策事業
7. 交通安全の推進
  - ・交通安全施設の整備
  - ・交通安全運動
  - ・暴走族等への対策
8. 防火・防犯対策を進め、安全安心なまちづくり
  - ・防犯対策の強化
  - ・火災予防に努め、消防体制を強化
9. 道路の整備を進め、住みやすいまちづくり
  - ・鼎地区内の狭隘道路の整備
  - ・幹線道路の整備
  - ・交通量の多い箇所の交差点改良

- ・井水の整備
- 10. 消費者が安心安全に暮らせるまちづくり
  - ・消費者が安心して暮らせるまちをみんなで考える
  - ・農業団体と連携し、安全な農産物の提供、地産地消運動の推進
- 11. 公共交通の整備と利用促進
  - ・公共交通の整備・交通手段の確保と充実・利用促進を図る

### ③ ともに支え合い助け合うまち

- 12. 子どもが健全に育つ環境づくりを進める
  - ・登下校時、通学路の安全確保・有害環境の排除
  - ・放課後・長期休みの子どもの居場所づくり
  - ・世代間交流の推進
  - ・健全育成事業の推進
- 13. 健康づくりと福祉の充実に努める
  - ・健康づくりの輪を広げる
  - ・生きがいを持ち、生き生きと活動する場所づくり
  - ・高齢者、交通弱者の交通手段の確保と充実
  - ・未婚男女の相談の場をつくり地域の活性化を目指す
  - ・支え合って、安心して暮らせるあたたかい地域を目指す
- 14. ゴミの減量化を進め、ゴミや公害のない美しい地域環境づくりに取り組む
  - ・ゴミの減量化に積極的に取り組み環境型社会の構築を目指す
  - ・ゴミに対するモラルや環境意識高揚の運動に取り組む

### ④ 自然を生かし暮らしやすいまち

- 15. 財産区（鼎財産区及び松川入財産区）の整備を進める
  - ・財産区の整備を進め、自然を守る心を育てる
- 16. 身近な自然の整備と施設の活用により、環境学習を進める
  - ・妙琴公園・矢高公園ほか地区内の各公園の整備と管理
  - ・公園の緑や水辺などの自然を守る
  - ・公園や財産区有林・水辺のスペースを活用し、自然とふれあう学習
- 17. 環境美化と省エネルギーの推進で、人と環境にやさしいまちづくりを進める
  - ・緑や花いっぱい運動
  - ・温室効果ガス削減につながる行動を広める
- 18. 公共施設の整備を図り、潤いのある生活に役立てる
  - ・教育施設の環境整備を進める
  - ・地域コミュニティ施設の整備を進める

### ⑤ 地域で学び地域で育つ文化あふれる心豊かなまち

- 19. 地育力を向上し、心豊かな人づくりを進める
  - ・一斉運動の推進
  - ・生涯学習の充実
  - ・学校教育との連携
- 20. 健やかに安心して暮らせるまちづくりを進める
  - ・文化の伝承と地域の人々の連携を深める



- ・気軽に参加できるスポーツの振興
  - ・地域に居住する外国人住民と異文化交流を進める
21. 人の営みと自然・文化が調和したまちづくりを進める
- ・ふるさと意識の醸成を図る
  - ・体験活動の企画・運営
22. 子育てを応援するまちづくりを進める
- ・子育てをあたたく支援
  - ・保育サービスの充実による子育て支援

#### IV 未来ビジョンを実現するための計画

## I 人口変動による影響

## ① 人口減少に伴う欠点

- 市税収入の減少に伴う行政コストの削減→予算が伴う行政サービスの低下の懸念がある。  
(具体的な例：公共建物の新增設・維持管理費（道路等も含む）の確保が難しくなる可能性がある。)
- 年少人口の減少に伴い教育機関のクラス数の減少の可能性がある。
- 生産年齢層の人口減少は、地域全体の家計収入・購買支出も減少することから地域内に循環する貨幣の総量も減少することが懸念される。
- 商業施設の売上減少への懸念。特に中心市街地の商業活力の減少
- 高齢人口の増加に伴う医療保険・病院経営への影響も懸念される。
- 世帯数の減少は、自治活動の取組に影響する。
- 高齢世帯の増加によりコミュニティを維持のための取組が増加する。
- 遊休荒廃地や空き家が増加する。

## ② 人口減少に伴う利点

- 今以上に個々を大事にすることが可能
- 乗用車の走行台数が減少することで、事故発生件数が減る可能性がある。
- 自然環境に与える負荷が少なくなる。

## ③ リニア開業による社会的・経済的影響（※「+」：プラス、「-」：マイナス、「+-」：取組しだい）

- 中間駅の設置される地方都市への影響について、国土交通省審議会に係る学識経験者へのアンケート結果によれば、その影響は、一概にプラスともマイナスともいえない結果が示されている。(+-)
- 当地域から他都市への移動時間が大幅に短縮することから企業の活動範囲（人の動き）の拡大する（+）。一方、主に自動車を使う企業の場合（物の動き）は、メリットが少ない可能性がある(+-)。
- 大都市圏からの移動時間（例；東京→箱根・小山等）が短縮することでこれまで以上の交流人口（観光客等）の拡大が期待できる（+）。一方では、時間と運賃の関係からリニアを使う人は限定される可能性がある（+-）。
- 一般的に高速交通網の整備は、吸引力の高い場所へ惹き付けられることにより、ストロー現象（若年人口の流出、支店等の合理化）が生じる可能性がある（-）。
- 大都市部と高速交通によるつながりが、新たな都市間の機能を補完或いは連携が期待できることで、新たな産業の創造（ソフトコンテンツ産業、企業研修施設、トップアスリートの合宿、サテライトキャンパス、MICE 機能等）につながる可能性がある（+）。
- 大都市圏との移動時間の短縮は、地域内の高度医療機関のあり方への影響の可能性もある（+-）。
- 首都圏との移動時間が短縮することで、中央省庁の移転候補地の可能性が高まる。（+）

## Ⅱ 地区未来ビジョン・地区人口展望

### (1) 未来ビジョン

- ① 地域全体の結束力と住民自治の組織力の向上
- ② 活力に満ちた健康づくり
- ③ 地域で育み地域で支え合う福祉
- ④ 組織的な災害対応、安全安心で快適な地域づくり
- ⑤ リニア時代を見据えた地域づくり
- ⑥ 土地利用計画等に則した地域づくり（自然環境の持続を含む）

※①～⑥の共通する取組として、子育てのための環境整備、高等教育環境の整備（人財育成）、他地域（他機関）との高度医療の充実

## Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

### (1) 地域全体の結束力と住民自治の組織力の向上

#### ① 組合加入促進

地域の結びつき（絆）は、河川清掃や道づくり、防災訓練における安否確認など安全安心のための地域づくりに必要であることから、組合への加入促進を積極的に取り組む。

#### ② 全員参加による理想の地域づくり

地域力の強化のため、まちづくり委員会には性別や年齢層に関わらず多くの住民が参加しやすい環境づくりが必要

#### ③ まちづくり委員会の組織力強化と情報発信の拡充

まちづくり委員会の予算の効果的な執行と検証により、次年度につなげる取り組みが必要。また、継続的な取り組みのための体制づくりが必要  
広報広聴機能の情実を図り、効率的な情報発信と訴求力を高める。

#### ④ 拠点施設の整備と地域コミュニティの醸成

市の土地利用計画に掲げる地域拠点としての機能を発揮するため施設整備が必要

### (2) 活力に満ちた健康づくり

#### ① 家族で考え健康長寿へ

健診を、家族の健康を考える機会と捉え、受診率を向上させることが必要

#### ② 域産域消と郷土料理の伝承

多種多様な地域の産物と脈々と伝承されてきた食文化を大切にした「ふるさと意識」を醸成する取組が必要

#### ③ 健康への関心を高める

子どもから高齢者まで生き生きと活動できる場をつくり、乳幼児期から健康への関心を高める取

り組みが必要

### (3) 地域で育み・支え合う福祉の地域づくり

#### ① 大人から行動するあいさつの輪

大人から子どもへあいさつすることで、顔なじみの関係を築き、いずれ地域の大人が子どもを叱ることができるようにする。保護者間のコミュニティづくりのための機会（地域行事、学級など）をつくり、育児不安の解消につなげる取組が必要

#### ② 高齢者や障害者も仲間として共に未来を支え合う地域づくり

安全安心の生活環境を保持していくため、高齢者の社会参加を大切にしながら高齢者の介護予防、生きがいづくりを通じた共助や見守りの推進、住民支え合いマップによる見守り支援、公共施設等のバリアフリーマップの作成により、だれもが地域の仲間として活動する意識づくりが必要

#### ③ 多様な体験で切り開く若者と地域の未来

広い視野を持ち柔軟な思考ができるようにするため、青少年に多様な体験機会を提供すること、子どもの安全安心を確保するための関係者（機関）による組織を設置することで、関係者（機関）の連携を強化することが必要。子どもを守る安心の家や見守りボランティアなど多様な主体が地域の子どもの安全や安心を担保することが必要

### (4) 組織的な災害対応と安全安心で快適な地域づくり

#### ① 防災・減災対策による災害対策

昨今の異常気象に伴い河川の氾濫、土砂災害、地震等の自然災害への対策を講じるとともに、自主防災意識の向上が必要

#### ② 交通安全・防火防犯対策

交通事故防止につながる交通基盤整備とともに、関係機関と連携した交通安全教室の推進  
ICTを媒体とした犯罪防止のための取組、自主パトロールやボランティア等防火防犯に効果的な取組を推進

#### ③ 安全安心な住環境のための生活道路の整備と雨水排水対策の促進

リニア中央新幹線の整備は、地域の交通基盤に与える影響が大きくなることから、人の動きに即した安全安心な生活道路の整備が必要

また、農地の宅地化に伴い土壌への雨水浸透が少なくなり、昨今の集中豪雨も重なり水路等への影響を懸念することから、都市計画と連携した土地利用対策が必要

#### ④ ごみの減量化・不法投棄対策・自然生態系の保護

住民にとって適正なごみ処理は、良好な住環境の保持につながる。ごみ処理の方法が不法投棄の防止につながる取組が必要

本来の自然環境を保持するための外来植物の駆除が必要。適正な自然環境の活用と保持が生態系の保護にもつながる。

### (5) リニア時代を見据えた地域づくり

リニア駅の駅勢圏は、広範囲に及ぶことが想定され、その玄関口となる駅が上郷北条地区に設置される。駅には、必要な様々な機能を備えることが想定されるが、上郷地域にとって相応しい駅となるよう特に次の項目について取り組む必要がある。

#### ① リニア開業に向けた総合対策・基盤整備の構築

本線及び関連する施設整備は、生活環境はもとより社会環境へも様々な影響を与えることから、総合的な対策を講じる必要がある。

#### ② 豊かな自然と里の景観保全・活用

山・里・まちの特性を活かした美しい景観形成が必要

各地域に脈々と引き継がれた自然環境（資源）に、更に磨きをかけることで唯一無二の資産にするとともに、更に人を引き付ける宝とすることが必要

③ 伝統文化・歴史の保存継承

伝統文化や歴史の保存継承は、次代につなげる大切な役割として認識することが必要

④ 活力ある地域産業の振興

グローバル時代において、地域産業にとっても国境の意識は一層少なくなる。将来を見据えた付加価値の高い強い産業づくりが必要

**(6) 地域を支える人づくりと文化を尊ぶ地域づくり**

① 学習・交流の機会による「地域の和」の実現

住民が自発的に地域活動に参加できる環境を整え、多様な主体が世代を跨ぎつながりあうことが必要

② クラブ・サークルや個人による自主的な学習・仲間づくりの推進

③ 地域の歴史・文化財の学習の推進とふるさと意識の醸成

地域内の人材の活用による学習の訴求力の向上とふるさと意識の醸成につながる。特に子どもが地域の歴史や文化を学びやすくなる取り組みが必要

④ まちづくり組織役員の担いやすい環境整備と人材育成

地域づくりにとって必要な役割を担う組織体制づくりは、負担が大きく、今後の人口構造推移からも担い手不足を否定できない。役員負担のあり方や人材育成が必要

**IV 未来ビジョンを実現するための計画**

**(0) すべての取組に共通する戦略**

① 子育てのための環境整備

保育施設の充実と規制緩和による環境整備を図ることにより育児負担を軽減する。

② 高等教育環境の整備

・ 次代に即した高等教育機関或は研究機関の創設により、地域で活躍できる人材（人財）の育成と内発型産業の起業につなげる。

③ 他地域との連携による高度医療の充実

・ 来る高速交通インフラを活用した高度医療機関連携システムにより、飯田市の資源を活用した治療・予防メニューを提供する。

**(1) 地域全体の結束力と住民自治の組織力の向上**

① 組合加入促進

まちづくり委員会役員が中心となり、加入促進チラシ配布、地域行事へ参加を呼び掛け、加入者の金銭的負担の軽減、新規の組合編成の支援等の取組を通じた勧誘を行う。また、毎年5月を加入強化月間として勧誘促進に努める。

② 全員参加による理想の地域づくり

子どもたちが地域行事に企画段階から参画できる環境づくり、若者・女性の視点をまちづくりの活動に取り入れる体制を整える。

③ まちづくり委員会の組織力強化と情報発信の拡充

効率的な予算執行のための事業の検証、事業の継続性を重視した役員体制、まちづくりに寄与す

る団体等への助成等との組織力強化を図る。

「広報かみさと」への情報の一元化や需要に応じた情報発信に努めるとともに、広聴の仕組みづくりを検討する。

#### ④ 拠点施設の整備と地域コミュニティの醸成

拠点施設に設ける多面的機能（まちづくり、防災対応、公民館、保健センター、行政サービス等）を十分発揮する施設とするために、計画段階から関係機関とともに参画する。

拠点施設周辺の学校施設は、次代を担う若者が通学していることから、交通安全、防犯対策等の環境対策を推進する。

### (2) 活力に満ちた健康づくり

#### ① 家族で考え健康長寿へ

健診受診の大切さ、生活習慣病の最新の知識を得られる情報発信を推進する。

健診調査書の提出が、家族が病気について考える機会につなげよう提出率の向上を図る。

#### ② 域産域消と郷土料理の伝承

域産域消や郷土料理の継承のため多世代への講座を開設するとともに、高齢者を講師とするなどの生きがいつくりにもつなげる。

#### ③ 健康への関心を高める

乳幼児から健康な体づくりを学ぶ講座の開設、競技スポーツのほか体のケア・健康づくりの講座について、従来の広報に加えICTを活用した情報発信を行う。

### (3) 地域で育み地域で支え合う福祉

#### ① 大人から行動するあいさつの輪

住民間のつながりをつくるため、就学前から保護者間が知り合える乳幼児学級等の機会の提供、まちづくり委員会と保育園との懇談の場づくり、大人から子どもへあいさつ運動に取り組む。行政機関と協調し、乳幼児学級、育児サークル、赤ちゃん訪問、ファミリーサポートセンター、公園等の施設の情報を提供する。

#### ② 高齢者や障害者も仲間として共に未来を支え合う地域づくり

##### (ア) 高齢者福祉

支援が必要な方に応じた方法で見守りや声かけを行う。また日常から災害助け合いマップを活用し、認知症への理解の浸透、在宅介護者の負担軽減に取り組む。

フォローアップ教室や子どものふれあい教室を通じた高齢者の心身の健康づくり、仲間づくりに資する事業を実施する。

買い物弱者に必要な移動手段に移送サービスを提供するとともに、公共交通路線の確保に努める。

##### (イ) 障害者福祉

障害に対する理解を深めるために障害者自身に関することや対応方法を地域や学校を通じて説明する。

地域のバリアマップを作成する。

障害に対する理解を深めるための活動や関係機関等と連携し、活躍しやすい環境づくりを展開する。

#### ③ 多様な体験で切り開く若者と地域の未来

##### (ア) 青少年健全育成

あいさつ運動、地域ならではの体験講座（子ども科学教室、料理教室）、野底山森林公園の祭りなどを実施する。

高校生がまちづくり委員会の事業に参画しやすい環境づくりを行う。

高校生とまちづくり委員会とでディスカッションの場を作る。

グリーンツーリズムの受け入れと学生同士の交流の場を研究する。

(イ) 関係機関との連携

保育、学校、児童民生、警察、まちづくり委員会等の関係する機関により構成する子どもを育む連絡協議会により横のつながりを深めることにより子どもの安心安全を確保する。

(ウ) 平和教育

平和祈念会の協力を得て、戦争体験を語り継ぐとともに、小中学生に対する平和教育を推進する。

(4) 組織的な災害対応、安全安心で快適な地域づくり

① 組織力の強化

有事の際に必要な情報を網羅した地域防災計画の作成し、必要に応じた更新を行う。

無線の活用による各地区災害対策本部と地域災害対策本部の連絡を強化する。

地域内に居住する必要な人材を予め把握し、有事の際に協力いただく体制を作る。

② 関係機関との連携

赤十字奉仕団は、計画的な訓練を実施するとともに、有事の際に機動性に優れたバイク隊を組織する。

消防団や赤十字奉仕団の団員の確保を地域全体で支援する。

水防組合による河川巡視を行う。

③ 社会基盤整備

河川、排水路、急傾斜地等の改修を進めます。また、地域内の開発行為に対して、雨水排水の抑制のためのルールを設け関係者への協力を得る。

④ 交通安全活動

高齢者を対象に交通安全教室を、交通安全意識啓発向上のための街頭啓発活動を実施する。また、担当する住民は、研修会を受講し専門知識を身につける。

交通危険箇所を把握し、関係機関に対して施設整備を働きかける。

⑤ 防火防犯活動

防犯灯の日常点検の実施と適切な修繕を行う。

定期的なパトロールの実施。子ども見守り隊の声かけ運動、子どもを守る安心の家の充実を図る。まちづくり委員会は、消防団との連携のより発災時の非常線の設置を支援する。

青少年のインターネットを通じた犯罪から守るために、警察や関係機関と協力して講習会等を開催する。

⑥ 生活道路の整備と雨水排水対策の促進による住環境の整備

幹線道路の維持補修、通学路の歩道を含め未改良区間の早期実現を働きかける。

道路の除草など地域において可能な作業は、小中学校 PTA 等と協力して実施する。

異常気象による水害予防に対応する排水路等の整備を進めるため、危険箇所の把握、開発行為に対するルールの適用等を図る。

⑦ ゴミの減量化と不法投棄対策及び自然生態系の保護の推進

ゴミの減量化のために、3R（リデュース、リユース、リサイクル）や集積所の適正管理に努める。適正管理のための周知を行う。

不法投棄パトロール隊による巡視活動、ポイ捨て防止看板の設置を行う。

アレチウリ、アメリカシロヒトリ等の被害防止のための駆除の実施。

## (5) リニア時代を見据えた地域づくり

## ① リニア開業に向けた総合的な対策と基盤整備の構築

リニア本体工事、周辺整備に伴い懸念する地域コミュニティ分断への対応するために、住み続けられる環境整備を働きかける。

リニア駅へのアクセス性を高めるための手段には、自然環境への十分配慮した方法を用いる。地域の魅力を発信し、野底山森林公園などの魅力的な滞留場所への誘導を図る。

上郷地域の土地利用方針に即した施設整備とする。

## ② 豊かな自然と里の景観の保全と活用

地域の大切な資産野底山及び野底山森林公園を財産区と連携し、住民参加による森林整備と保全に努める。また森林整備の意義を共感をする団体等においても関与いただく取り組みを進める。野底山森林公園の有効活用のため、管理体制の強化と交流人口の拡大に向けた様々なイベント等を企画する。

地域の地勢的特徴を活かし、美しい景観を保全するため、建築物や屋外広告物の設置に関するルールをつくり、関係者の協力を得る。

## ③ 伝統文化・歴史の保存と継承

人形浄瑠璃や御柱などの古くから脈々と引き継がれてきた伝統行事を後世につなぐため、若年層への学習の場を提供する。また、広く情報発信することにより、交流人口の拡大につなげる。

## ④ 活力ある地域産業の振興

農業においては、新規就農者に対する農業塾等の支援、市田柿のブランド強化のための製品管理、地元食材を活用した6次産業化に向けた研究を進める。

商工業において、地元の小売店舗は、買い物弱者への対応を含め地域の専門店として地域の需要に応える店づくりを進める。

観光においては、豊かな自然環境、資源に磨きをかけ、来る超高速交通時代に相応しい観光商品の造成に努める。

## (6) 地域を支える人づくりと文化を尊ぶ地域づくり

## ① 学習・交流の機会による「地域の和」の実現

地域の和づくりのため、体育大会や運動会、文化展や芸術祭等の事業を通じた住民同士の知り合える機会を提供する。

既存の組織に拘らず、世代を跨いだ（小中高連携等）参加しやすい環境を提供する。

## ② クラブ・サークルや個人による自主的な学習・仲間づくりの推進

参加しやすい環境の整備とクラブの主体的な活動を推進する。また、クラブ間の交流により双方の刺激となる機会をつくる。

## ③ 上郷地域の歴史や文化財の学習推進、ふるさと意識の情勢

地域内人材の発掘及び地元学を学ぶ講座を開催する。小学校と連携し地元学の副教材となる資料を作成する。

## ④ 役員になりやすい環境整備と人材育成

役員の過大な負担とならない役割を分担する。

多くの方が役員を担える研修を通じた人材を育成する。

継続して役員を担える制度を設け、やる気のある人材を削がない仕組みをつくる。





**I 人口変動による影響**

- ・ 上村地区じたいが存続できない可能性がある。
- ・ 地区内の自治会が存続できなくなり消滅する可能性がある。
- ・ 地区内の環境整備が行き届かなくなり荒廃地が増える。
- ・ 地域コミュニティの崩壊。
- ・ 高齢化が進み、子育て世代がいなくなり、子どもがいなくなる。保育園、小学校が存続できなくなり、保育園は廃園（又は統合）、小学校は和田小学校と統合せざるを得なくなり、地域から子供の声が消える。
- ・ 役員のなり手が無い。
- ・ 地区行事（霜月祭等）、公民館活動の縮小又は休止せざるを得なくなる。
- ・ 遊休農地、空き家が増加することにより環境・景観保全が保てない。
- ・ 観光施設の維持が出来なくなり、受け入れもできなくなり交流人口が減る。
- ・ 三遠南信道の開通により交流人口が増えることが予想され、これからの地域づくりによっては、再生可能。U I ターン者も増加することを考えられる。
- ・ 三遠南信道現道活用を絶好の機会と捉え地域資源を活かした観光が可能になる。
- ・ 道路整備により、就労場所是他地区、居住地区としての地域づくりをすることができる。

**II 地区未来ビジョン・地区人口展望**

- ・ 保育園、小学校の存続と特色ある学校づくり（一人ひとりが主役の学校づくり）。
- ・ 伝統文化の活字、映像化したものを活用した後継者の育成、継承。
- ・ 高齢者が元気で暮らせる地域づくり、誰もが安心して最期を自宅（地域）で迎えらる地域。
- ・ 遊休農地を活用した地域食材ブランド化、特産品の開発
- ・ 小沢川小水力発電所の早期建設と売電収益を利活用した地域振興事業（若者定住等）の推進
- ・ 環境・景観・地域資源の保全に取り組み、環境保全型観光及び農業の実現
- ・ 観光資源（しらびそ高原、下栗の里等）の保全
- ・ U I ターンの受け入れ体制を整え、空家、遊休農地を有効利用する。

### Ⅲ 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

- ・ 地域の子供は地域で育てる仕組みを構築し子育てしやすい地域を目指す
- ・ 環境、景観、地域資源の保全に取り組み、環境保全型観光及び農業の実現
- ・ 地域全員参加型のまちづくりの実現
- ・ 高齢者や障害者の生活を地域全体で支える地域の実現
- ・ U I ターンを地域全体で受け入れる体制づくり（コーディネーター養成、空家活用、情報発信等）の実現
- ・ 遊休農地を活用した（ズク出せ P J（仮称））地域食材のブランド化
- ・ 特産品、お土産品の開発
- ・ 小沢川小水力発電事業の事業化の実現
- ・ 伝統文化の活字、映像化したものを活用した後継者の育成、継承の実現

### Ⅳ 未来ビジョンを実現するための計画

#### Ⅰ 環境保全型観光・農業に取り組む交流人口を増やします

- ① 遊休農地を活用した農産物の生産、付加価値を付けた特産品の研究開発
- ② 恵まれた地域資源を活かした観光・農業への取組のしくみづくり

#### Ⅱ 子育てしやすい地域を目指します

- ① 特色ある小学校づくりに地域全体で協力できる体制づくり
- ② 地域で運営する子どもの居場所づくり(放課後、長期休み等)

#### Ⅲ 『わ(和・輪・環)』のある地域を創ります

- ① UIターンの受入体制を整え、空家、遊休農地を有効活用するしくみづくり
- ② 隣近所、地域全体で助け合い、誰もが安心して暮らせる地域づくり

#### Ⅳ 高齢者等を地域全体で支え、誰もが安心して暮らせる地域を創ります

- ① 高齢者の生活を地域全体で見守り、助け、安心して最期まで地域(自宅)で暮らせるしくみづくり
- ② 子どもから高齢者、障害者も誰もが安心安全に暮らせる住みやすい地域づくり

#### Ⅴ 自然・伝統文化を守り育て、自立した上村を目指します

- ① 小水力発電事業を早期に実現させ、その売電収益を活用した地域づくり
- ② 伝統文化の担い手を育て継承するしくみづくり(地区外からの応援ボランティアの受入等)

## I 人口変動による影響

## (良い影響)

- ・三遠南信自動車道青崩トンネル開通により豊かな自然と伝統文化を求め、地域に都市住民が訪れる。
- ・リニア効果として新しい人材の定住、UI ターン者の増加が期待される。
- ・交通網の整備により、地域で生活する両親と、他地区で生活する子供達との距離が近くなり、より安心して生活ができる。
- ・大都市への通勤・通学が可能となる。
- ・この地域は退職後の生活の場所とするには、大変住みやすい地域であり多くの人が定住する可能性が高くなる。
- ・大幅に増加する交流人口に対応するため、新たな雇用創出が期待される。

## (悪い影響)

- ・人口減少と高齢化により、まちづくり委員会・自治会等の役員の選出が難しくなり、現在の役員体制専門委員会の定数の見直しが必要となる。
- ・保育園・小学校・中学校の存続方法を検討する必要がある。(義務教育までの体制が確保できなくなれば、地域の存続は難しいと思われる。)
- ・人口減少により、地域の商店が存続できなくなる。(現在でも若者は、市街地に買い物に出てしまい、地元の商店を利用しない。)
- ・地区内では、自治会を維持できなくなる地区が発生する可能性がある。
- ・1人暮らしの高齢者が増加し、日常生活に不安が伴う。
- ・空き家が増加し住環境が悪化する。
- ・耕作放棄地が増加し、山村の原風景が失われる可能性がある。

## II 地区未来ビジョン・地区人口展望

- 住んで楽しい南信濃地区 ⇒ 声掛け活動、互いに支えあう暮らし方、
- 伝統文化と豊かな自然のある南信濃地区 ⇒ 高齢者の知識を活かした伝統文化の継承
- 子育て世代が安心して生活できる南信濃地区 ⇒ 地域全体で子供たちの見守活動の実施
- 福祉と健康の里の南信濃地区 ⇒ 高齢者が健康で安心して生活できる地域(健康教室など)

## III 地区未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

- ①全国的な人口減少の中、南信濃地区のみ人口増を期待することはできない、このため人々が生活し守り育んだ豊かな自然・伝統文化を継承することで、交流人口の増加を目指す。
- ②若者の住みやすい地域づくりのため、子育て世代の意見をくみ取れるような組織づくりを図る。
- ③地域の子供たちは、地域全体で支援するような体制づくりを進める。
- ④高齢者を地域全体で見守る活動を推進し、高齢者にも住みやすい地域づくりを図る。
- ⑤田舎暮らしを希望する都市住民に、移住を促進する体制づくりを進める。

## IV 未来ビジョンを実現するための計画

- ①-1 伝統文化である霜月祭りを伝承するため、現在中学生に行っている指導を拡大することで、祭り本日には帰省してもらえる人材の育成を図る。
- ①-2 霜月祭りに訪れる多くの人々に、お祭りそのものに参加してもらい、より遠山郷に対する理解を深めもらう。
- ②-1 若者世代が南信濃地域に住み、子育てを行いたいと思う支援策として、定住促進事業の拡充を図る。
- ②-2 地域自治組織として、若者の意見を取り込めるよう、組織の改革を行う。
- ③-1 若者世代(子育て世代)は、夫婦とも就業している世帯が多い、地域全体で子供たちを見守り・育てる環境整備を図る。
- ③-2 子供たちの登下校時間帯は、可能な限り地域の高齢者が外に出て見守る。(高齢者が見守ることも大切だが、逆に子供たちが高齢者を守ることに繋がる。)
- ④-1 地域全体で高齢者の見守り活動ができるよう、健康福祉プロジェクトへの支援体制を整備し、介護保険制度では支援を受けにくい、身近な部分を支援する。
- ④-2 通院・買い物などにおける移動手段、ゴミ出しのお手伝いなど、近隣住民が実施可能な部分での支援策を整備する。
- ⑤-1 南信濃地区での、田舎暮らし情報を発信し、移住を希望する都市住民に、この地区で可能な生活情報を提供する。
- ⑤-2 空き家・市営住宅等の利活用を研究し、お試し移住のための安価な宿を提供するなどの支援策を整備する。

## Ⅱ 第5次基本構想基本計画の政策評価のまとめ

## 政策1

### 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり

| 施策<br>番号 | 重<br>点 | 施策名称                    | 1 事務事業の評価<br>(取組の状況評価)   |                                     |                          |                          | 2 施策全体評価<br>(外部要因も含めた総合的な評価) |                                     |                                     |                          |
|----------|--------|-------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|
|          |        |                         | 計画<br>どおり<br>取り組<br>めた   | おお<br>むね<br>計画<br>どおり               | あまり<br>取り組<br>めな<br>かった  | 達成<br>できな<br>かった         | 進ん<br>だ                      | ある程<br>度進<br>んだ                     | あまり<br>進まな<br>かった                   | 進まな<br>かった               |
| 1-1      | ○      | 支え、育む産業基盤づくり            | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>     | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/> |
| 1-2      | ○      | 未来を見据えた地域産業の魅力、強み、人材の強化 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>     | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 1-3      | ○      | 新しい力による新しい産業づくり         | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>     | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/> |

#### 【これまでの成果と要因】

◎ 経済自立度を高める多様な産業政策の推進・・・地域経済活性化プログラムによる産業基盤の整備

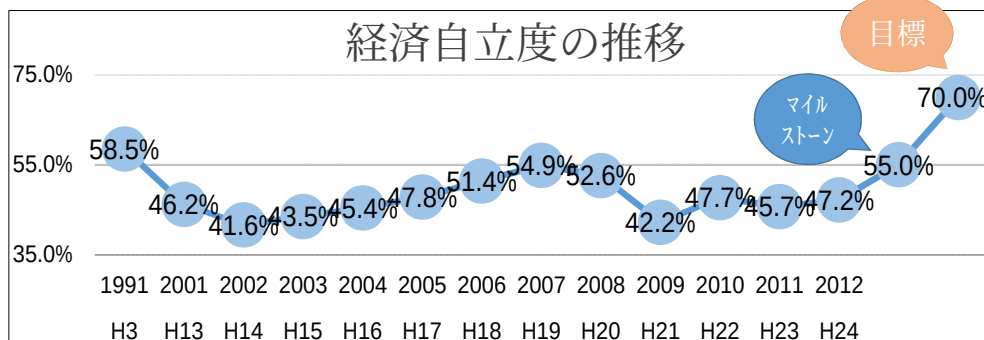
◎ 新しい産業づくりのための多様な主体との連携・・・航空宇宙プロジェクト(登録企業数38社)、メディカルバイオクラスター登録企業(50社)、南信州食品産業協議会(116社)、リニアを見据えた新たな食品産業づくり研究会(27社)等

◎ 地域産業の強化・・・市田柿、南信州牛、特徴的な食肉文化等のブランド化。伝統地場産業(水引、菓子等)については、飯田市産業親善大使に小椋ケンイチ氏、小沢あきこ氏を委嘱し、知名度向上及びブラ

◎ 人づくり、人材誘導・・・大学や支援機関と連携した飯田産業技術大学、ものづくり高度人材育成事業(平成18年の開講以来述べ13,000人以上、修士取得者18人)、小学生、高校生、一般を対象の各種ビジネス講座開催(コミュニティビジネス起業セミナー、高校生商業講座、地元産業見学ツアー、SNS活用講座)、収穫・食体験、農家交流ツアー、結い(U)ターン支援

#### 【成果を表す特徴的な事例】

▽ 経済自立度(飯田・下伊那地域が地域産業により経済的に充足している度合いを示す指標)



目標:70.0%  
マイルストーンは、  
リーマンショック前  
の経済自立度で  
ある55.0%

#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

☐ 少子高齢化、人口減少により人材不足や後継者不足の状況がさらに進み、事業の維持・継続・発展が困難に

☐ ...調整中

☐ ...調整中

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

◇ 技術継承、新事業展開のためには人材育成と人材確保が必要であり、学校、企業、行政の連携を強化し将来を見据えた次世代への訴求が必要

◇ 若者が帰ってこられる産業づくりに向けて、これまでの航空機産業の取組みを先導役とし、メディカルバイオクラスターや食品産業クラスターの形成支援を行う等、地域産業全体の底上げを図る

◇ 高付加価値都市づくりに向けた異業種間の新しい連携による新しい価値づくり



## 政策2

### 地育力によるこころ豊かな人づくり

| 施策番号 | 重点 | 施策名称         | 1 事務事業の評価<br>(取組の状況評価) |           |             |          | 2 施策全体評価<br>(外部要因も含めた総合的な評価) |         |           |        |
|------|----|--------------|------------------------|-----------|-------------|----------|------------------------------|---------|-----------|--------|
|      |    |              | 計画どおり取り組めた             | おおむね計画どおり | あまり取り組めなかった | 達成できなかった | 進んだ                          | ある程度進んだ | あまり進まなかった | 進まなかった |
| 2-2  | ○  | 義務教育の充実      | ■                      | □         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 2-3  |    | 高等教育の充実      | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 2-4  | ○  | 家庭教育の充実      | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 2-5  |    | 共に歩む社会づくりの推進 | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 2-6  |    | スポーツの振興      | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 2-7  | ○  | 文化芸術の振興      | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 2-8  |    | 学習交流活動の推進    | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 2-9  | ○  | ふるさと意識の醸成    | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |

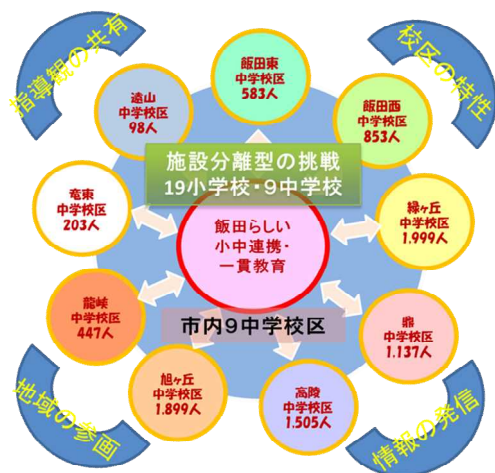
#### 【これまでの成果と要因】

- ◎ 地域で学び地域で育つ「地育力」の促進・・・飯田らしい「小中連携・一貫教育」の取組み、「ふるさと学習」による地域資源の発見・資産化及び保存継承、「体験学習」、「キャリア教育」及び「高校生の地域人教育」の実施
- ◎ 学習環境の充実・・・教育支援のための特別支援教育支援員をH23の22人からH26の42人へ増員、非構造部材の耐震化（H27完了予定）、竜峡共同調理場の移転・改築、伊賀良小学校第2体育館建設
- ◎ 多様な主体との協働による社会教育・スポーツ・文化芸術事業の振興・・・地域課題に向き合う事業に取り組む各地区の公民館活動、ノルディックウォーク、歩育コースを新設した「やまびこマーチ」、市民主体で実施する「いいだ人形劇フェスタ」、「オーケストラと共に音楽祭」

#### 【成果を表す特徴的な事例】

##### ▽ 飯田らしい小中連携・一貫教育

- ①各中学校区の課題やめざす子ども像を共有 ②学力向上に向けた一貫性ある指導 ③異校種、異学年、隣接校の児童生徒交流 ④中1ギャップの緩和 ⑤中学校への進学に不安な児童減少



#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

- 児童生徒の減少及び高校生の約7割が大学等へ進学し、地元就職と進学後のUターン就職は約4割となり、人材が不足
- 社会全体のグローバル化やIT化の進展、高速交通網時代到来によるふるさと意識の希薄化、一方で、東日本大震災を契機に「暮らしにおける人々の絆の大切さ」への意識転換

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

- ◇ 飯田で育った子どもたちが、学びや経験・経歴を積むために一旦は地域外に出て、やがては飯田に戻り、子育てを行い、地域産業や地域づくりの担い手として活躍する人材サイクルの構築
- ◇ 飯田の資源を活かし、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人材の育成
- ◇ 多様な主体との協働による地育力の促進において、講師を担う地域人材の確保及び学校と地域人材を結びつけるコーディネート能力の形成・維持



## 政策3

### 健やかに安心して暮らせるまちづくり

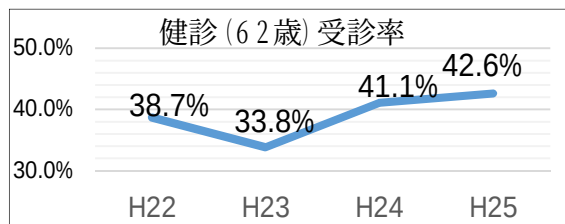
| 施策番号 | 重点 | 施策名称             | 1 事務事業の評価<br>(取組の状況評価)              |                                     |                          |                          | 2 施策全体評価<br>(外部要因も含めた総合的な評価)        |                                     |                          |                          |
|------|----|------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
|      |    |                  | 計画どおり取り組めた                          | おおむね計画どおり                           | あまり取り組めなかった              | 達成できなかった                 | 進んだ                                 | ある程度進んだ                             | あまり進まなかった                | 進まなかった                   |
| 3-1  | ○  | 心と体の健康づくり        | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3-2  |    | 医療の充実            | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3-3  | ○  | 共に支えあう地域福祉の推進    | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3-4  |    | 障害者福祉の推進         | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3-5  |    | 高齢者福祉の推進         | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3-6  |    | 生活困難者の自立及び支援     | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3-7  | ○  | 子どもを産み育てやすい環境の充実 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

#### 【これまでの成果と要因】

- ◎ 「市民総健康」と「生涯現役」を目指した市独自の「地域健康ケア計画」の策定と実践…重点プロジェクトの1つ「健康づくり家庭訪問」では62歳を対象に検診・健康教室を案内し、健診受診率が向上
- ◎ 地域医療を守る取組…市立病院第3次整備(救急、周産期、がん診療の部門を中心として施設整備)、飯田下伊那診療情報連携システム[ism-Link]の普及、飯伊地区包括医療協議会との連携
- ◎ 相談・支援・負担軽減等による子育て支援対策の充実…こども家庭応援センター「ゆいきっず」の開設(27年度)、多子世帯への保育料の軽減措置、中学生卒業までの子ども医療費の給付、病児・病後児保育施設「おひさまはるる」の運営
- ◎ 地区のまちづくり委員会や福祉団体の自発的な支え合いづくりの推進…全20地区の「住民支え合いマップ」の作成・見直しと、見守り・声かけや買い物など日常生活支援の取組

#### 【成果を表す特徴的な事例】

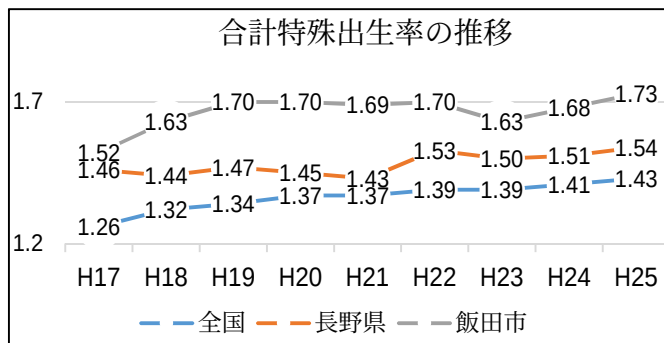
##### ▽ 健康づくり家庭訪問 受診率の向上



##### ▽ 飯田市立病院



##### ▽ 合計特殊出生率 H17の1.52→1.70前後に回復



市立病院第3次整備事業(北棟・南棟増築)  
～ 救命救急・がん診療・産科等の充実に向け ～  
(平成23～平成25年度 約31億円)

#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

- 高齢化が進むことを背景に26年6月「医療・介護総合確保推進法」が成立し、地域包括ケアシステムの構築が急務であることと、2025年以降の人口推計における高齢者人口の減少
- 26年5月の日本創生会議人口減少問題検討分科会の提言を契機に、人口減少社会への危機感が全国的に高まり、少子化対策が国の重要政策に位置づき、地方の子育て支援策も重点的な取組が必要

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

- ◇ 第6次飯田市介護保険事業計画において「地域包括ケアシステムの構築」を主眼に掲げ、被介護者が住み慣れた地域で安心して生活し続けられるためのネットワークや地域の支え合いの仕組みづくりを推進
- ◇ 若者のライフデザインづくり、結婚支援、妊娠出産から子育てへの段階に応じた相談・支援など課題に対する途切れのない体制による取組

## 政策4

### 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり

| 施策番号 | 重点 | 施策名称       | 1 事務事業の評価<br>(取組の状況評価) |               |                     |              | 2 施策全体評価<br>(外部要因も含めた総合的な評価) |             |                   |            |
|------|----|------------|------------------------|---------------|---------------------|--------------|------------------------------|-------------|-------------------|------------|
|      |    |            | 計画どおり<br>取り組めた         | おおむね<br>計画どおり | あまり<br>取り組めな<br>かった | 達成<br>できなかった | 進んだ                          | ある程度<br>進んだ | あまり<br>進まな<br>かった | 進まな<br>かった |
| 4-1  | ○  | 災害対策の推進    | ■                      | □             | □                   | □            | □                            | ■           | □                 | □          |
| 4-2  |    | 交通安全の推進    | □                      | ■             | □                   | □            | □                            | ■           | □                 | □          |
| 4-3  |    | 地域安全の推進    | □                      | ■             | □                   | □            | □                            | ■           | □                 | □          |
| 4-4  |    | 交通機関と道路の充実 | □                      | ■             | □                   | □            | □                            | ■           | □                 | □          |
| 4-5  |    | 居住基盤の向上    | □                      | ■             | □                   | □            | □                            | ■           | □                 | □          |

#### 【これまでの成果と要因】

- ◎ 防災拠点施設、防災資機材の整備・・・新庁舎建設移転に伴う「危機管理センター」の設置、千代・下久堅・上久堅・丸山の各公民館の改築及び改修、防災備蓄倉庫の設置(28箇所)と備蓄品の維持管理
- ◎ 防災や環境に有効な道路改良・・・信号機の交差点からラウンドアバウト(環状交差点)への道路改良(東和町、吾妻町)
- ◎ 通学路の安全対策・・・「飯田市通学路安全対策アクションプログラム」(24年度)に基づき、小学校、PTA、警察等の関係機関と連携した施設整備・環境整備を実施
- ◎ 公共施設の長寿命化・・・橋りょう長寿命化計画による修繕工事、公園施設長寿命化計画による公園遊具等の整備、水道ビジョンや下水道事業経営計画による長寿命化・耐震化工事の実施

#### 【成果を表す特徴的な事例】

▽防災拠点施設の整備(危機管理センター)    ▽ラウンドアバウト(環状交差点)への道路改良



市役所新庁舎(26年12月完成)



- 信号機の不要  
⇒災害時の停電対策
- 待機アイドリングの不要  
⇒環境に優しい交差点



東和町のラウンドアバウト

写真提供:株式会社飯田ケーブルテレビ

#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

- 急激な気象変動による洪水・土砂災害等の頻発化、発生が懸念される南海トラフ巨大地震の地域指定
- 高度経済成長期以降に集中的に整備されたインフラ施設の老朽化に伴う修繕等の維持管理経費及び更新費用の増加
- リニア中央新幹線の開業に伴い必要となるアクセス道路をはじめ、リニア飯田駅を生かした地域活性化のための道路整備と公共交通機関の運行への要望

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

- ◇ 全地区で作成した地区防災計画の具体的な活動や訓練等の支援をはじめ、防災施設の整備、防災教育の実施、自主防災組織・飯田市赤十字奉仕団の支援など多様な主体との協働による防災対策を推進
- ◇ 道路ストック総点検に基づく維持補修計画の策定、橋りょう長寿命化計画、公園施設長寿命化計画、水道ビジョンや下水道事業経営計画等に基づく、計画的・効率的な修繕・工事を行うことで維持管理のコスト削減と施設の安全性を確保
- ◇ リニア中央新幹線の動向を注視し、関係機関との連携を図りながらインフラ整備の考え方を整理するとともに、人口減少・高齢化社会における地域の公共交通のあり方を検討

## 政策5

### 人の営みと自然・環境が調和したまちづくり

| 施策番号 | 重点 | 施策名称             | 1 事務事業の評価<br>(取組の状況評価)   |                                     |                          |                          | 2 施策全体評価<br>(外部要因も含めた総合的な評価)        |                                     |                          |                          |
|------|----|------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
|      |    |                  | 計画どおり取り組めた               | おおむね計画どおり                           | あまり取り組めなかった              | 達成できなかった                 | 進んだ                                 | ある程度進んだ                             | あまり進まなかった                | 進まなかった                   |
| 5-1  |    | 緑の保全と創出          | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5-3  |    | 環境汚染の防止          | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5-4  |    | 自然とのふれあいと環境学習の推進 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5-5  |    | 日常的な環境負荷低減活動の展開  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5-6  |    | 廃棄物の減量と適正処理      | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5-7  | ○  | 社会の低炭素化の推進       | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

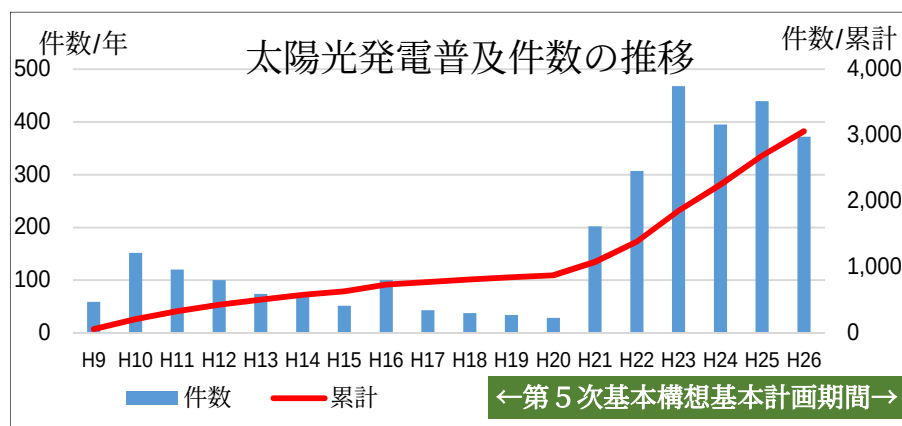
#### 【これまでの成果と要因】

- ◎ 再生エネルギーの利用による低炭素化・・・第2次環境モデル都市行動計画の策定、分権型エネルギー自治の理念に基づく「飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例（地域環境権条例）」の制定（25年度）、同条例に基づく「再生可能エネルギー活用事業」の認定・実施（7件）
- ◎ 地域・多様な主体への環境意識の働きかけ、情報発信・・・「ポイ捨て等防止市民条例（略称）」の制定（26年度）、「エコハウス」、「旧飯田測候所」を拠点とした活動、南アルプスユネスコエコパークへの登録
- ◎ 市民等の役割発揮による省エネの取組・・・市民の太陽光発電施設設置累計3,000件超（全世帯数の約8%）、木質ペレットストーブ・薪ストーブの補助累計約500件、自転車市民共同利用システムの延べ利用人数82,800人（27年度見込み）

#### 【成果を表す特徴的な事例】

▽ 太陽光発電の普及 H26年度末 3,059件（全世帯の7.8%）

▽ 地域環境権による再エネ事業



#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

- 太陽光発電施設による固定価格買取制度の価格低下の流れと、余剰売電期間（10年）の終了を迎えた際の売電によらない余剰電力の活用に関する市民等の要望
- 「東日本大震災（H23年3月）」を契機に市民の環境意識（省エネ・再エネ）の高揚が図られたが、時間の経過とともに環境意識が風化していくことの懸念
- 南アルプスユネスコエコパーク、ジオパークの取組への世界的評価に対する環境意識の向上と共に、そこを貫くりニア中央新幹線関連工事に伴う環境変化への関心の高まり
- 29年12月に南信州広域連合の次期ごみ焼却処理施設が供用開始の予定

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

- ◇ 第2次環境モデル都市行動計画の柱である「地域環境権条例」の普及啓発の推進と適用案件の創出
- ◇ 「エコハウス」に次ぐ環境情報発信基地として「旧飯田測候所」の積極的な活用と、指定管理者との協働による環境教育の「場」として事業企画・運営
- ◇ 次期ごみ処理施設の供用開始を見据えた分別収集、適正処理について、多様な主体の意見等を踏まえた検討と、啓発・周知を実施



## 政策6

### 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり

| 施策番号 | 重点 | 施策名称        | 1 事務事業の評価<br>(取組の状況評価)   |                                     |                          |                          | 2 施策全体評価<br>(外部要因も含めた総合的な評価) |                                     |                          |                          |
|------|----|-------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
|      |    |             | 計画どおり取組めた                | おおむね計画どおり                           | あまり取組めなかった               | 達成できなかった                 | 進んだ                          | ある程度進んだ                             | あまり進まなかった                | 進まなかった                   |
| 6-1  |    | 地域資源の発見・資産化 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>     | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 6-3  | ○  | 地域資産の保存・継承  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>     | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

#### 【これまでの成果と要因】

- ◎ 地域資源の資産化・・・恒川官衙遺跡の国史跡指定(26年3月)、旧飯田測候所(24年8月)・下伊那教育会館及び黒須家の門等5棟(26年10月)の国登録有形文化財への登録、県市文化財指定(7件)
- ◎ 地域資源の発見・・・菱田春草研究の蓄積に基づく生誕140周年の記念展(未完の作「雨中美人」と、大量のスケッチ画の発見)
- ◎ 地域資源の保存・活用・・・旧飯田町の風情を残す仲ノ町から馬場町のエリアにおける旧飯田測候所の建物及び敷地一体の整備、菱田春草生誕地公園の整備、文化財修復支援(11件)
- ◎ 地域資産の情報発信・・・3県10市町村で構成する南アルプス世界遺産登録推進協議会の取組による南アルプスのユネスコエコパークへの登録(26年6月)

#### 【成果を表す特徴的な事例】

##### ▽ 菱田春草生誕地公園の整備

##### 菱田春草生誕地整備事業 H25～

全体事業費(～26実績) 7,299万円

国庫補助(社会資本) 3,179万円

地方債(合併特例債) 2,240万円

その他(寄附金、基金) 1,765万円

一般財源 115万円

内容:生誕地にある塀と看板のみ

→H23「菱田春草誕生の地」整備を願う市民の会発足

→春草を顕彰する公園の整備

→春草公園を愛する会と協働し維持活用



菱田春草



横山大観書のモニュメント

明治7年仲ノ町に生まれる H27.3.29開園

##### ▽ 旧飯田測候所の建物及び敷地一体の整備

##### 旧飯田測候所整備活用事業 H23～26

全体事業費 2億3,567万円

国庫補助(社会資本) 9,915万円

地方債(合併特例債) 9,300万円

一般財源 4,352万円

内容:国から土地・建物を取得

旧飯田測候所の耐震補強と外観改修、資料展示

東栄公園整備と一体に整備、「脇坂門」移設

指定管理制度により環境学習の拠点として活用



#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

- コミュニティ機能の低下、高齢化・世代交代による地域資源・資産の維持管理の困難性、リニア時代における諸開発による貴重な地域資源の消失の懸念

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

- ◇ 地域変貌に備えて、守るべきものを守り、地域の魅力を一層高めるために地域内外の研究団体や専門機関との連携した調査研究活動を実施し、更なる地域資源の資産化を推進
- ◇ リニア時代向け、飯田の個性と魅力を発信し人をひきつける交流資源として地域資産を積極的に活用
- ◇ 多くの市民が所有・管理している地域資産の保存・継承を進める社会環境の醸成、そのために社会教育機関が総合力を発揮して、多様な主体による協働関係を構築し、地域ぐるみでの取組を支援

## 政策7

### 自立・連携した地域づくり

| 施策<br>番号 | 重<br>点 | 施策名称            | 1 事務事業の評価<br>(取組の状況評価)   |                                     |                          |                          | 2 施策全体評価<br>(外部要因も含めた総合的な評価) |                                     |                          |                          |
|----------|--------|-----------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
|          |        |                 | 計画<br>どおり<br>取り組<br>めた   | おお<br>むね<br>計画<br>どおり               | あまり<br>取り組<br>めな<br>かった  | 達成<br>できな<br>かった         | 進ん<br>だ                      | ある程<br>度進<br>んだ                     | あまり<br>進まな<br>かった        | 進まな<br>かった               |
| 7-1      |        | 地域情報・課題の相互理解の推進 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>     | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 7-2      | ○      | 自立に向けた住民組織力の向上  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>     | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

#### 【これまでの成果と要因】

- ◎ 住民組織が地域で考え、地域で活動し、役割を果たす組織となるための支援・・・パワーアップ地域交付金(全地区合計1億円/年)、集会施設整備、コミュニティ助成事業補助金、地域コミュニティサイト運営
- ◎ まちづくり委員会が行う地域づくり活動の活性化・・・各地区の基本構想・基本計画の策定が進み、20地区中17地区が計画を策定(H26末現在)

#### 【成果を表す特徴的な事例】

▽ 集会施設整備の状況 (集会施設整備事業補助金 H24～H27決算額(見込み) 8,462万円)

##### 集会施設整備 20件

###### 【内訳】

- H24 3件 山本北平5組合、山本東平二ノ下、上久堅原平
- H25 5件 鼎上山区、鼎下山区、柿野沢南、松川町、新井コミュニティ消防センター
- H26 6件 太田上、宮の平、千代田力、西鼎、上殿岡、恒川清水
- H27(予定) 6件 座光寺上野地区、名古熊六班、上久堅区森区、名古熊区、箱川上平

▽ コミュニティ助成の状況 (コミュニティ助成事業補助金 H24～H27決算額(見込み) 3,780万円)

##### コミュニティ助成 17件

###### 【内訳】

- H24 3件 三穂まちづくり委員会、切石区、八重河内地区会
- H25 3件 上中村自治会、上殿岡区、上茶屋区
- H26 6件 本町三丁目自治会、立石区、下山区、丹保まちづくり委員会、越久保区、丸山まちづくり委員会
- H27(予定) 4件 駄科地域まちづくり委員会、山本地域づくり委員会、時又区、下殿岡区



三穂まちづくり委員会(公園遊具)



下山区(親獅子、若獅子)



本町三丁目(大名行列・蓬萊大鳥毛)

#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

- ☐ 行政主導によらない地域自治組織の取組が継続し、地域住民の自発性の意識の根付きによりNPO・市民団体を巻き込んだ活動の更なる活性化を見込む
- ☐ 一方、高齢化、核家族化による地域活動の負担感や、インターネット・SNSの普及による情報の万能化により組合加入率の低下を見込む

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

- ◇ それぞれの地域自治組織が特徴を生かした地域づくりに取り組むことが求められ、そのための組織強化・機能強化・環境整備の支援が必要

## 政策8

### 山・里・街の魅力を高め交流と連携によるグローバルなまちづくり

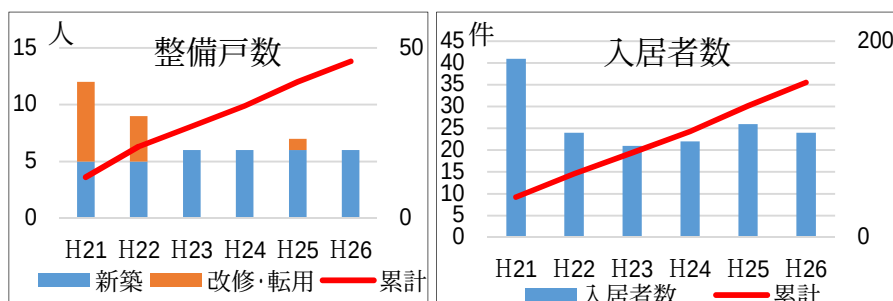
| 施策番号 | 重点 | 施策名称               | 1 事務事業の評価<br>(取組の状況評価) |           |             |          | 2 施策全体評価<br>(外部要因も含めた総合的な評価) |         |           |        |
|------|----|--------------------|------------------------|-----------|-------------|----------|------------------------------|---------|-----------|--------|
|      |    |                    | 計画どおり取り組めた             | おおむね計画どおり | あまり取り組めなかった | 達成できなかった | 進んだ                          | ある程度進んだ | あまり進まなかった | 進まなかった |
| 8-1  | ○  | 交流による高付加価値化・国際化の推進 | □                      | ■         | □           | □        | ■                            | □       | □         | □      |
| 8-2  | ○  | 三遠南信・中京圏の連携推進      | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 8-3  | ○  | 計画的な空間利用の推進        | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 8-4  | ○  | 活気ある街づくりの推進        | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |
| 8-5  | ○  | 中山間地域振興の推進         | □                      | ■         | □           | □        | □                            | ■       | □         | □      |

#### 【これまでの成果と要因】

- ◎ 中山間地域の定住人口対策・・・地域振興住宅の整備による中山間地域への定住促進（新築・改修 46棟、居住者 158人）
- ◎ 知のネットワークの形成、人的ネットワークの活用による学習、交流の機会の創出・・・フィールドスタディ、学輪II DAなど大学、研究者とのネットワークづくり（26年度大学数 15校・学生数 613人）
- ◎ 地域ブランドの確立に向けたブランディング事業とシティープロモーションの推進・・・ファクトブック、飯田ランキング、銀座NAGANOでのプロモーションの取組
- ◎ 地域が主体的に取り組む計画策定の支援・・・地域土地利用方針（松尾、鼎、上郷、龍江）、地域景観計画及び地域緑の計画（座光寺、松尾、鼎、上郷、龍江）
- ◎ 中心市街地の活気づくりの推進・・・りんご並木を中心としたハードの整備（並木横丁いこいこ、大型駐車場整備、動物園改修など）と、ソフトの取組（丘のまちフェスティバル、高校生文化フェスティバルなど）
- ◎ 人形劇を通じた都市間交流やネットワークづくりの推進・・・35周年を向かえた「人形劇フェスタ」、AVIAMA（人形劇の友・友好都市国際協会）ほか国内外の都市との交流

#### 【成果を表す特徴的な事例】

▽ 中山間地域における地域振興住宅の整備（下久堅、上久堅、千代、龍江、三穂、上村、南信濃）



地域振興住宅

#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

- 中山間地域をはじめ地方都市回帰の流れに注目が集まる時勢において、リニア中央新幹線の整備、三遠南信自動車道の延伸、新東名高速道路の開通などインフラが整いつつある中で、国内外の移動時間短縮による交流人口の増加を見込む
- 国の「国土形成計画」におけるリニア中央新幹線による「スーパーメガリージョン形成」の位置付け
- 地方創生に向けた総合戦略の策定とその対応が求められ、地方の「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む「好循環」の確立と、「好循環」を支えるための活力ある「まち」の実現を目指す

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

- ◇ 国が進める国家戦略であるリニア中央新幹線による「スーパーメガリージョン形成」におけるナレッジリンク（知的対流）の一翼を担う「知の拠点づくり」と、広域連携の促進
- ◇ 人形劇を通じた「小さな世界都市」の推進
- ◇ 飯田市土地利用基本方針における「拠点集約連携型都市構造」の推進
- ◇ 中山間地域の各まちづくり委員会との連携による地域資源を活用した活性化策と、定住人口・交流人口の拡大に向けた取組



## 政策9

### 市民と共に進める行政経営

| 施策番号 | 重点 | 施策名称          | 1 事務事業の評価                |                                     |                          |                          | 2 施策全体評価                 |                                     |                          |                          |
|------|----|---------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------|
|      |    |               | (取組の状況評価)                |                                     |                          |                          | (外部要因も含めた総合的な評価)         |                                     |                          |                          |
|      |    |               | 計画どおり取り組めた               | おおむね計画どおり                           | あまり取り組めなかった              | 達成できなかった                 | 進んだ                      | ある程度進んだ                             | あまり進まなかった                | 進まなかった                   |
| 9-1  |    | 市民参画による協働の促進  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 9-2  |    | 情報共有の促進       | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 9-3  |    | 良質な行政サービスの提供  | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 9-4  |    | 効率的、効果的な行財政運営 | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

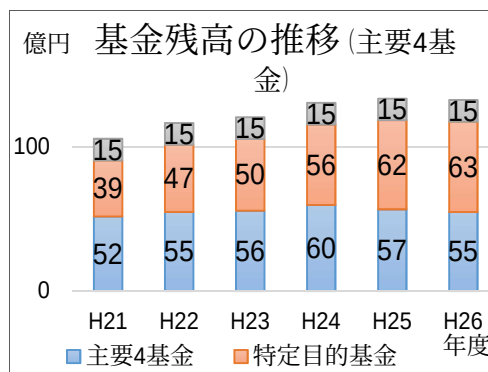
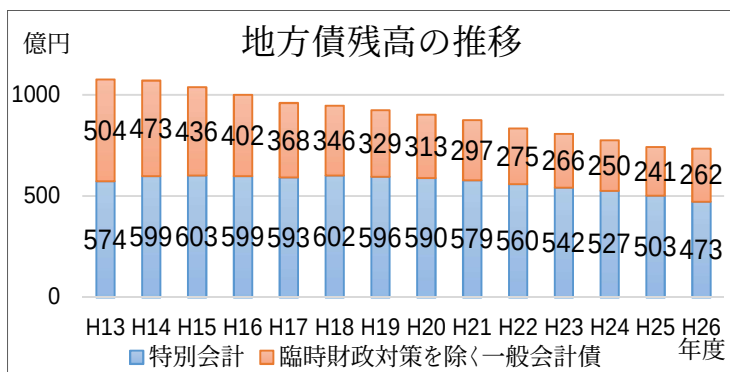
#### 【これまでの成果と要因】

- ◎ 歳出の削減と歳入の確保・・・飯田市行財政改革大綱における行革プラン、定員適正化計画に基づく取組や、市税収納率が4ヶ年連続で県内19市中1位を維持
- ◎ 協働を担う多様な主体の支援や、まちづくりへ参加する手段の確保・・・ムトス精神によるまちづくりの促進、総合的な空き家対策、飯田女子短大「いいレポ隊」による情報発信

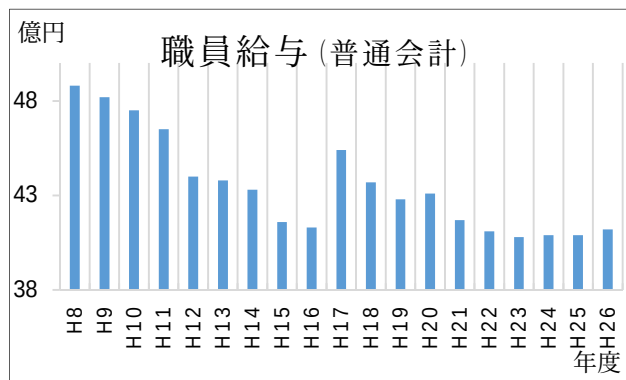
#### 【成果を表す特徴的な事例】

▽ 地方債残高の目標値 28年度末まで700億円以下

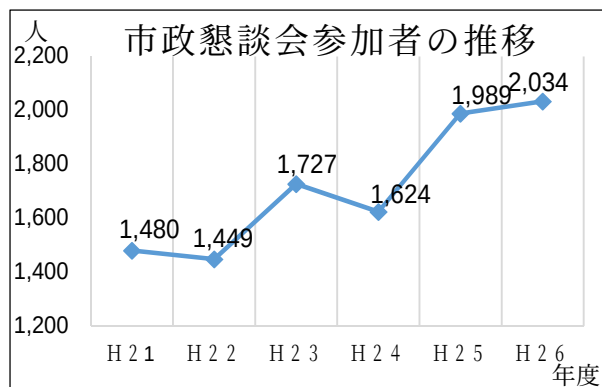
▽ 基金残高の目標値 28年度末30億円程度



▽ 職員給与費の抑制



▽ 多様な主体との協働によるまちづくり



#### 【取り巻く状況の変化、今後の変化の予想】

- 人口減少・高齢化などによる市財政運営への影響(税収の減、社会保障費の増)、建設後30年以上経過する建物施設の更新費用などの対応
- 効果的で迅速な質の高いサービスや情報の提供を実現するため、ICTを活用した新しい行政システム構築の要望

#### 【今後の変化やリニア時代を見据えたときの課題、課題解決の有効策】

- ◇ 協働を担う多様な主体と連携し、「ムトスの精神」に沿った活動の積極的な支援
- ◇ ヒト(職員)、モノ(施設等)、カネ(財政)の観点で、着実な経費削減と、市財政の効果的運営を進めるための改革改善の目標を設定
- ◇ 特に飯田市職員適正化計画による職員数のあり方の検討と管理、飯田市公共施設マネジメント基本方針に基づく施設の具体的な検討と方向付け
- ◇ 人口減少・高齢化・多様な社会における協働が担う役割の発揮により市民満足度を向上するため、ICT技術の進展に伴う行政サービスや情報の提供に係る不断の調査・研究の実施